

平成 28 年度 奨学金の返還者に関する属性調査結果

独立行政法人日本学生支援機構  
奨学事業戦略部奨学事業戦略課

## < 目 次 >

### I 調査の概要

### II 調査結果

#### 基礎情報

1. 奨学生本人の性別
  2. 奨学本人の年齢
  3. 奨学生本人の居住地域
  4. 奨学金の種類
  5. 奨学金の貸与学種
- 
- 1 回答者および奨学金申請に関すること
    - (1)回答者 表 1-1
    - (2)奨学金申請時の書類作成者 表 1-2
    - (3)だれに奨学金の申請を勧められたか 表 1-3
    - (4)奨学金申請を決めた時期 表 1-4
    - (5)返還義務を知った時期 表 1-5
  
  - 2 主な返還者について
    - (1)主な返還者 表 2-1
    - (2)奨学金を返還するための原資 表 2-2
    - (3)主な返還者と主な原資との関係 表 2-3-1～2-3-2
    - (4)主な返還者と学種との関係 表 2-4-1～2-4-2
    - (5)同居している家族 表 2-5
    - (6)同居している家族と年齢の関係 表 2-6-1～2-6-2
  
  - 3 奨学生本人の職業について
    - (1)本人の職業 表 3-1-1～3-1-2
    - (2)本人の職業と年齢との関係 表 3-2-1～3-2-2
    - (3)本人の職業と学種との関係 表 3-3-1～3-3-2
  
  - 4 奨学生本人の年収について
    - (1)本人の年収 表 4-1-1～4-1-2
    - (2)本人の年収と職業との関係 表 4-2-1～4-2-2
    - (3)本人の年収と年齢との関係 表 4-3-1～4-3-2
    - (4)本人の年収と学種との関係 表 4-4
  
  - 5 延滞の理由と今後の返還の見通しについて※延滞者にのみ質問
    - (1)延滞が始まった理由(きっかけ) 表 5-1-1～5-1-2
    - (2)延滞が継続している理由 表 5-2-1～5-2-3
    - (3)延滞が継続している理由と始まった理由(きっかけ)との関係 表 5-3
    - (4)延滞が継続している理由と主な返還者との関係 表 5-4
    - (5)延滞が継続している理由と年収との関係 表 5-5
    - (6)延滞が継続している理由と職業との関係 表 5-6

6	返還期限の猶予制度について	
	(1) 猶予制度の認知状況	表 6-1-1～6-1-2
	(2) 猶予制度の認知状況と年齢との関係	表 6-2-1～6-2-2
	(3) 猶予制度の認知状況と年収との関係	表 6-3-1～6-3-2
	(4) 猶予制度をどこから知ったか	表 6-4
	(5) 猶予制度の申請状況	表 6-5
	(6) 猶予申請しない理由	表 6-6-1～6-6-2
	(7) 猶予制度の猶予期間の長さ	表 6-7
7	減額返還制度について	
	(1) 減額返還制度の認知状況	表 7-1-1～7-1-2
	(2) 減額返還制度の認知状況と年齢との関係	表 7-2-1～7-2-2
	(3) 減額返還制度の認知状況と年収との関係	表 7-3-1～7-3-2
	(4) 減額返還制度をどこから知ったか	表 7-4
	(5) 減額返還制度の利用状況	表 7-5
8	無延滞者の返還状況※無延滞者にものみ質問	
	(1) 延滞経験の有無	表 8-1
	(2) 延滞になったことを知ったきっかけ	表 8-2
	(3) 延滞の解消方法	表 8-3
	(4) 延滞をより早く解消できたと思われる返還方法	表 8-4
	(5) 繰上返還制度の認知状況	表 8-5
	(6) 個人信用情報機関への登録の認知状況	表 8-6
	(7) スカラネット・パーソナルの認知状況	表 8-7-1～8-7-2
9	各種情報提供の利用等状況	
	(1) 日本学生支援機構送付書類の閲覧状況	表 9-1-1～9-1-2
	(2) 日本学生支援機構のホームページ閲覧状況	表 9-2-1～9-2-2
10	日本学生支援機構の奨学金に対する意識	
	(1) 日本学生支援機構からの情報提供	表 10-1
	(2) 日本学生支援機構の奨学金に対する意識	表 10-2-1～10-2-3
	(3) 奨学金がどのように役に立ったか	表 10-3-1～10-3-2

<調査票>

奨学金の返還に関するアンケート調査への協力をお願い（延滞者用）

奨学金の返還に関するアンケート調査への協力をお願い（無延滞者用）

（注意）

- 1 各表は無回答・不明を除いた比率で集計している。
- 2 単位は人である。
- 3 四捨五入をした数を使用しているため、内訳の数の合計が合計欄の数と一致しない場合がある。
- 4 複数回答可の設問に関する表の各回答の比率は合計しても 100%にならない。  
※ 各回答の比率は回答者数の合計に対する比率である。
- 5 表区分の年度は、調査年度を表す。

## I 調査の概要

### 1 目的

奨学金の延滞者および無延滞者の属性を把握し、今後の奨学金回収方針に役立てることとする。

### 2 調査対象

(1) 平成 28 年 11 月末において、奨学金返還を 3 か月以上延滞している者（以下「延滞者」という。）を延滞年数および性別で層化し、無作為抽出した 19,623 人。

(2) 平成 28 年 11 月末において、奨学金返還を延滞していない者（以下「無延滞者」という。）を学種および性別で層化し、無作為抽出した 9,695 人。

### 3 調査方法

質問を記入した調査票を送付し、返信用封筒による返送、またはインターネットにて調査質問への回答を求めた。回答のない者に対しては、再度調査票を送付し、返送を依頼した。

### 4 調査時期

平成 29 年 1 月

### 5 回答受入状況

	抽出人数	回答人数	回答率	参考母数(平成 28 年度末)
延滞者	19,623 人	2,838 人	14.5%	160,580 人
無延滞者	9,695 人	2,402 人	24.8%	3,649,525 人

※ 回答人数には無回答・不明回答を含まない。

(参考) 平成 28 年度末現在の状況

① 返還を要する者（返還期日到来分のみ）	3,984,551 人
② 返還している者	3,649,525 人
③ 1 日以上の延滞者	335,026 人
④ 3 か月以上の延滞者	160,580 人

## II 調査結果

### 基礎情報

#### 1 奨学生本人の性別

(単位:人)

性別	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
男性	1,480	52.1%	1,176	49.0%
女性	1,358	47.9%	1,226	51.0%
計	2,838	100.0%	2,402	100.0%

#### 2 奨学生本人の年齢

(単位:人)

年齢(歳)	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
～24	111	3.9%	443	18.4%
25～29	432	15.2%	948	39.5%
30～34	868	30.6%	669	27.9%
35～39	600	21.1%	249	10.4%
40～44	357	12.6%	46	1.9%
45～49	258	9.1%	28	1.2%
50～	212	7.5%	19	0.8%
計	2,838	100.0%	2,402	100.0%

#### 3 奨学生本人の居住地

(単位:人)

地域	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
北海道	144	5.1%	82	3.4%
東北	202	7.1%	184	7.7%
関東(東京除く)	474	16.7%	506	21.1%
東京	332	11.7%	268	11.2%
甲信越(山梨、長野、新潟)	59	2.1%	93	3.9%
東海(静岡、愛知、三重、岐阜)	185	6.5%	260	10.8%
北陸	37	1.3%	58	2.4%
近畿	502	17.7%	391	16.3%
中国	153	5.4%	160	6.7%
四国	72	2.5%	69	2.9%
九州・沖縄	678	23.9%	331	13.8%
計	2,838	100.0%	2,402	100.0%

#### 4 奨学金の種類

(単位:人)

種別	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
第一種	1,426	50.2%	940	39.1%
第二種	1,146	40.4%	1,186	49.4%
両方	266	9.4%	276	11.5%
計	2,838	100.0%	2,402	100.0%

#### 5 奨学金の貸与学種

(単位:人)

学種	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
高等学校	547	19.3%	57	2.4%
高等専門学校	13	0.5%	95	4.0%
短期大学	228	8.0%	147	6.1%
大学	1,484	52.3%	1,429	59.5%
大学院	124	4.4%	272	11.3%
専修学校専門課程	431	15.2%	370	15.4%
専修学校高等課程	11	0.4%	32	1.3%
計	2,838	100.0%	2,402	100.0%

## 1 回答者および奨学金申請に関すること

### (1)回答者（択一）

延滞者では「奨学生本人」が回答している比率は76.5%であるのに対し、無延滞者では82.5%で無延滞者の方が6ポイント高い。一方、延滞者では「本人の親」が回答している比率が20.7%で、無延滞者よりも高くなっている。

表 1-1 (単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	2,134	76.5%	1,960	82.5%
本人の親	577	20.7%	395	16.6%
本人の配偶者・パートナー	73	2.6%	19	0.8%
その他	6	0.2%	2	0.1%
計	2,790	100.0%	2,376	100.0%
無回答	48		26	

### (2)奨学金申請時の書類作成者（択一）

奨学金申請時の書類作成者は、延滞者では「親（または祖父母等の家族、親戚）」が39.0%と最も高い。奨学生本人が書類作成に関わっている比率は「奨学生本人」33.2%、「本人と親等」21.5%で、合計54.7%である。「書類作成者はわからない」との回答も6.0%みられる。一方、無延滞者では、書類作成は「奨学生本人」が52.0%と最も高い。

表 1-2 (単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
本人	933	33.2%	1,247	52.0%
親(または祖父母等の家族、親戚)	1,098	39.0%	519	21.7%
本人と親等	606	21.5%	592	24.7%
その他	8	0.3%	1	0.0%
わからない	169	6.0%	37	1.5%
計	2,814	100.0%	2,396	100.0%
無回答	24		6	

### (3)だれに奨学金の申請を勧められたか（択一）

「奨学生本人が決めた（勧めた人は特にいらない）」と回答した者は、延滞者では20.0%であるのに対し、無延滞者では30.7%と高い。一方、「学校の先生や職員が勧めた」と回答した者は延滞者では15.7%と、無延滞者の4.9%に比べて高くなっている。

表 1-3 (単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学生本人が決めた(勧めた人は特にいらない)	562	20.0%	735	30.7%
親(または祖父母等の家族、親戚)が勧めた	1,612	57.2%	1,516	63.3%
学校の先生や職員が勧めた	443	15.7%	118	4.9%
友人・知人が勧めた	46	1.6%	10	0.4%
上記以外の方が勧めた	3	0.1%	2	0.1%
計	2,817	100.0%	2,396	100.0%
無回答	21		6	

(4)奨学金申請を決めた時期（択一）

大学、短期大学、専修学校（専門課程）で奨学金の貸与を受けた者に、奨学金申請を決めた時期を質問した。延滞者、無延滞者ともに「高校3年生の時点」+「高校卒業後」が80%を超えているが、延滞者では「高校卒業後」、無延滞者では「高校3年生の時点」の比率が最も高い。

表 1-4

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
高校入学より前	74	3.5%	73	3.8%
高校1年生の時点	42	2.0%	41	2.1%
高校2年生の時点	52	2.5%	79	4.1%
高校3年生の時点	825	39.3%	1,031	53.7%
高校卒業後	865	41.2%	622	32.4%
わからない	240	11.4%	75	3.9%
計	2,098	100.0%	1,921	100.0%
無回答	45		25	

(5)返還義務を知った時期（択一）

「申込手続きを行う前」に返還義務を知った者は、無延滞者では89.1%と9割近いのに対し、延滞者では50.5%と約半数にとどまり、申込手続きまでの返還義務の認識が十分ではないことがうかがえる。また延滞者では、貸与終了後に返還義務を知った者の合計は20.7%で、その半数の11.5%は「延滞督促を受けてから」知ったと回答している。

なお、経年変化はほとんどみられない。

表 1-5

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
申込手続きを行う前	1,408	50.5%	2,133	89.1%
申込手続中	372	13.3%	136	5.7%
貸与中	186	6.7%	67	2.8%
貸与終了時	102	3.7%	15	0.6%
貸与終了後～返還開始前	134	4.8%	23	1.0%
返還開始～督促前	124	4.4%	3	0.1%
延滞督促を受けてから	322	11.5%	6	0.3%
その他	9	0.3%	0	0.0%
わからない	132	4.7%	12	0.5%
計	2,789	100.0%	2,395	100.0%
無回答	49		7	

## (参考) 延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
申込手続きを行う前	1,478	51.2%	1,790	49.5%	2,243	56.1%	2,073	54.7%	2,295	55.8%
申込手続中	367	12.7%	468	12.9%	410	10.2%	477	12.6%	631	15.4%
貸与中	184	6.4%	239	6.6%	211	5.3%	219	5.8%	223	5.4%
貸与終了時	87	3.0%	127	3.5%	129	3.2%	150	4.0%	156	3.8%
貸与終了後～返還開始前	116	4.0%	181	5.0%	181	4.5%	174	4.6%	185	4.5%
返還開始～督促前	158	5.5%	181	5.0%	164	4.1%	132	3.5%	-	-
延滞督促を受けてから	314	10.9%	355	9.8%	377	9.4%	308	8.1%	406	9.9%
その他	28	1.0%	39	1.1%	35	0.9%	35	0.9%	31	0.8%
わからない	155	5.4%	239	6.6%	251	6.3%	224	5.9%	183	4.5%
計	2,887	100.0%	3,619	100.0%	4,001	100.0%	3,792	100.0%	4,110	100.0%
無回答	54		145		138		81		59	

## (参考) 無延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
申込手続きを行う前	2,752	88.6%	1,951	90.3%	2,319	92.5%	2,240	90.6%	1,013	90.8%
申込手続中	181	5.8%	114	5.3%	98	3.9%	123	5.0%	67	6.0%
貸与中	76	2.4%	40	1.9%	33	1.3%	48	1.9%	17	1.5%
貸与終了時	19	0.6%	14	0.6%	12	0.5%	13	0.5%	3	0.3%
貸与終了後～返還開始前	20	0.6%	16	0.7%	16	0.6%	20	0.8%	10	0.9%
返還開始～督促前	13	0.4%	2	0.1%	6	0.2%	6	0.2%	-	-
延滞督促を受けてから	3	0.1%	4	0.2%	4	0.2%	4	0.2%	1	0.1%
その他	7	0.2%	2	0.1%	3	0.1%	2	0.1%	1	0.1%
わからない	34	1.1%	17	0.8%	17	0.7%	17	0.7%	4	0.4%
計	3,105	100.0%	2,160	100.0%	2,508	100.0%	2,473	100.0%	1,116	100.0%
無回答	13		10		14		4		1	



## 2 主な返還者について

### (1) 主な返還者（択一）

「奨学生本人」が返還している比率は、延滞者では68.1%であるのに対し、無延滞者では85.2%と高い。一方「本人の父母」が返還している比率は、延滞者では18.2%と、無延滞者の11.7%と比べて高い。

※28年度は選択肢を変更し、延滞者の選択肢に「現在は返還できていない」を追加した。

表 2-1 (単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	1,915	68.1%	2,045	85.2%
本人の親	511	18.2%	280	11.7%
本人の配偶者・パートナー	69	2.5%	74	3.1%
その他	8	0.3%	0	0.0%
現在は返還できていない	307	10.9%	-	-
計	2,810	100.0%	2,399	100.0%
無回答	28		3	

### (参考) 延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	2,075	72.2%	2,410	65.2%	2,629	65.1%	2,437	64.5%
本人の父母	750	25.7%	1,151	31.1%	1,243	30.8%	1,204	31.9%
本人の兄弟姉妹	2	0.1%	12	0.3%	13	0.3%	9	0.2%
本人の祖父母	9	0.3%	9	0.2%	8	0.2%	7	0.2%
本人のおじ・おば	0	0.0%	4	0.1%	0	0.0%	0	0.0%
本人の配偶者	50	1.7%	52	1.4%	93	2.3%	86	2.3%
その他	29	1.0%	58	1.6%	50	1.2%	36	1.0%
計	2,915	100.0%	3,696	100.0%	4,036	100.0%	3,779	100.0%
無回答	26		68		103		94	

### (参考) 無延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	2,669	85.9%	1,808	83.8%	2,110	84.1%	2,066	84.8%
本人の父母	356	11.5%	300	13.9%	326	13.0%	318	13.1%
本人の兄弟姉妹	0	0.0%	0	0.0%	3	0.1%	0	0.0%
本人の祖父母	2	0.1%	0	0.0%	2	0.1%	1	0.0%
本人のおじ・おば	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
本人の配偶者	72	2.3%	42	1.9%	67	2.7%	38	1.6%
その他	8	0.3%	8	0.4%	2	0.1%	12	0.5%
計	3,107	100.0%	2,158	100.0%	2,510	100.0%	2,435	100.0%
無回答	11		12		12		42	

(2) 奨学金を返還するための原資（択一）

延滞者、無延滞者ともに原資は「給与など働いて得る収入」がほとんどである。延滞者では「年金」の比率が7.4%となっている。

表 2-2

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
給与など働いて得る収入	2,184	87.7%	2,264	94.8%
預貯金	53	2.1%	83	3.5%
年金	185	7.4%	34	1.4%
公的な補助金・給付金	21	0.8%	4	0.2%
その他	47	1.9%	4	0.2%
計	2,490	100.0%	2,389	100.0%
無回答	41		13	

※延滞者は「(1) 主な返還者」において「現在は返還できていない」と回答した人を除いて集計した。

(3) 主な返還者と主な原資との関係

主な返還者と奨学金を返還するための原資との関連性をみた。

主な返還者が「奨学生本人」の場合、延滞者、無延滞者ともに原資は「給与など働いて得る収入」である人がほとんどである。

主な返還者が「本人の親」である場合、「給与など働いて得る収入」を原資としている人の比率は、延滞者 63.3%に対し、無延滞者は 84.5%と高い。一方、「年金など」を原資としている人の比率は延滞者 34.1%に対し無延滞者は 9.4%と、延滞者の親の方が年金を返還に充当している比率が高くなっている。

表 2-3-1 主な返還者×原資（延滞者）

(単位:人)

主な返還者	原資		給与など働いて得る収入		預貯金		年金		公的な補助金・給付金		その他		計		無回答
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
奨学生本人	1,793	94.1%	51	2.7%	7	0.4%	14	0.7%	40	2.1%	1,905	100.0%	10		
本人の親	319	63.3%	2	0.4%	172	34.1%	5	1.0%	6	1.2%	504	100.0%	7		
本人の配偶者・パートナー	64	94.1%	0	0.0%	1	1.5%	2	2.9%	1	1.5%	68	100.0%	1		
その他	4	50.0%	0	0.0%	4	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%	0		
計	2,180	87.7%	53	2.1%	184	7.4%	21	0.8%	47	1.9%	2,485	100.0%	18		
無回答	4		0		1		0		0		5		23		

表 2-3-2 主な返還者×原資（無延滞者）

(単位:人)

主な返還者	原資		給与など働いて得る収入		預貯金		年金		公的な補助金・給付金		その他		計		無回答
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
奨学生本人	1,960	96.0%	68	3.3%	8	0.4%	3	0.1%	2	0.1%	2,041	100.0%	4		
本人の親	234	84.5%	15	5.4%	26	9.4%	1	0.4%	1	0.4%	277	100.0%	3		
本人の配偶者・パートナー	70	98.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	71	100.0%	3		
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0		
計	2,264	94.8%	83	3.5%	34	1.4%	4	0.2%	4	0.2%	2,389	100.0%	10		
無回答	0		0		0		0		0		0		3		

(4)主な返還者と学種との関係

主な返還者と貸与を受けた学種の関連性をみた。

延滞者、無延滞者ともに上級校ほど「奨学生本人」が返還している比率が高い傾向がある。なお無延滞者の方が学種による差が少ない（大学院－高等学校＝延滞者 22.4%、無延滞者 11.6%）。

表 2-4-1 主な返還者×学種（延滞者）

(単位:人)

主な返還者	高等学校		高等専門学校		短期大学		大学		大学院		専修学校 専門課程		専修学校 高等課程		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	313	57.9%	8	61.5%	154	67.5%	1,046	71.2%	98	80.3%	290	68.1%	6	60.0%	1,915	68.1%
本人の親	145	26.8%	4	30.8%	39	17.1%	233	15.9%	10	8.2%	78	18.3%	2	20.0%	511	18.2%
本人の配偶者・パートナー	17	3.1%	1	7.7%	10	4.4%	29	2.0%	2	1.6%	9	2.1%	1	10.0%	69	2.5%
その他	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	5	0.3%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	8	0.3%
現在は返還できていない	66	12.2%	0	0.0%	23	10.1%	157	10.7%	12	9.8%	48	11.3%	1	10.0%	307	10.9%
計	541	100.0%	13	100.0%	228	100.0%	1,470	100.0%	122	100.0%	426	100.0%	10	100.0%	2,810	100.0%
無回答	6		0		0		14		2		5		1		28	

表 2-4-2 主な返還者×学種（無延滞者）

(単位:人)

主な返還者	高等学校		高等専門学校		短期大学		大学		大学院		専修学校 専門課程		専修学校 高等課程		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人	47	82.5%	82	86.3%	119	81.0%	1,213	85.1%	256	94.1%	300	81.1%	28	87.5%	2,045	85.2%
本人の親	7	12.3%	11	11.6%	17	11.6%	170	11.9%	14	5.1%	60	16.2%	1	3.1%	280	11.7%
本人の配偶者・パートナー	3	5.3%	2	2.1%	11	7.5%	43	3.0%	2	0.7%	10	2.7%	3	9.4%	74	3.1%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	57	100.0%	95	100.0%	147	100.0%	1,426	100.0%	272	100.0%	370	100.0%	32	100.0%	2,399	100.0%
無回答	0		0		0		3		0		0		0		3	

(5)同居している家族（複数）

無延滞者と比べて延滞者は「本人の配偶者・パートナー」「子ども」と同居している比率が高く、「一人暮らし」の比率は低くなっている。

表 2-5

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学生本人の親	856	30.4%	717	29.9%
本人の配偶者・パートナー	1,250	44.5%	939	39.2%
子ども	772	27.5%	453	18.9%
その他	146	5.2%	111	4.6%
一人暮らし	588	20.9%	717	29.9%
わからない	25	0.9%	4	0.2%
回答者数	2,812	-	2,396	-
無回答	26		6	

(6)同居している家族と年齢の関係

同居している家族と年齢との関連性をみた。

20代では、延滞者に対して無延滞者の方が「一人暮らし」の比率が10ポイント以上高く、30代以降では無延滞者に対して延滞者の方が「奨学生本人の親」との同居率が高く、「配偶者・パートナー」との同居率が低くなっている。

表 2-6-1 同居している家族×年齢（延滞者）

(単位:人)

区分	～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人の親	62	56.4%	141	32.9%	277	32.1%	166	27.9%	96	27.1%	73	28.7%	41	19.7%	856	30.4%
本人の配偶者・パートナー	13	11.8%	150	35.0%	411	47.6%	300	50.5%	178	50.3%	113	44.5%	85	40.9%	1,250	44.5%
子ども	6	5.5%	77	18.0%	238	27.5%	198	33.3%	127	35.9%	81	31.9%	45	21.6%	772	27.5%
その他	7	6.4%	28	6.5%	42	4.9%	27	4.5%	21	5.9%	14	5.5%	7	3.4%	146	5.2%
一人暮らし	29	26.4%	108	25.2%	158	18.3%	104	17.5%	62	17.5%	57	22.4%	70	33.7%	588	20.9%
わからない	2	1.8%	4	0.9%	6	0.7%	4	0.7%	4	1.1%	2	0.8%	3	1.4%	25	0.9%
回答者数	110	-	428	-	864	-	594	-	354	-	254	-	208	-	2,812	-
無回答	1	/	4	/	4	/	6	/	3	/	4	/	4	/	26	/

表 2-6-2 同居している家族×年齢（無延滞者）

(単位:人)

区分	～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学生本人の親	221	50.0%	326	34.5%	112	16.8%	45	18.1%	8	17.4%	4	14.3%	1	5.6%	717	29.9%
本人の配偶者・パートナー	37	8.4%	270	28.5%	403	60.4%	168	67.5%	29	63.0%	20	71.4%	12	66.7%	939	39.2%
子ども	9	2.0%	81	8.6%	209	31.3%	112	45.0%	20	43.5%	19	67.9%	3	16.7%	453	18.9%
その他	41	9.3%	44	4.7%	17	2.5%	7	2.8%	1	2.2%	1	3.6%	0	0.0%	111	4.6%
一人暮らし	166	37.6%	339	35.8%	156	23.4%	42	16.9%	9	19.6%	2	7.1%	3	16.7%	717	29.9%
わからない	1	0.2%	1	0.1%	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.2%
回答者数	442	-	946	-	667	-	249	-	46	-	28	-	18	-	2,396	-
無回答	1	/	2	/	2	/	0	/	0	/	0	/	1	/	6	/

### 3 奨学生本人の職業について

#### (1)本人の職業（択一）

本人の職業について、延滞者では「正社（職）員」は40.6%、「その他の社（職）員」33.0%、「無職・失業中／休職中」12.4%となっている。これに対し、無延滞者では「正社（職）員」は73.4%、「その他の社（職）員」14.6%、「無職・失業中／休職中」2.9%と就業形態に大きな差があり、無延滞者の方が安定した就業状況にあるといえる。（表 3-1-1）

男女別でみると、延滞者、無延滞者ともに、男性の方が女性と比べて「正社（職）員」の比率が20ポイント以上高い。

女性の「正社（職）員」と「その他の社（職）員」の比率をみると、延滞者では「正社（職）員」26.3%、「その他の社（職）員」40.8%であるのに対し、無延滞者では「正社（職）員」63.1%、「その他の社（職）員」18.7%と男性よりも差が大きい。

なお、女性の「専業主婦(夫)」である比率は、延滞者と無延滞者で顕著な差はみられない（延滞者：14.4%、無延滞者：11.6%）。（表 3-1-2）

表 3-1-1

（単位：人）

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
正社（職）員・従業員/常勤社（職）員・従業員	1,126	40.6%	1,748	73.4%
その他の社（職）員・従業員（パート・アルバイト、派遣、契約社員等）	915	33.0%	347	14.6%
自営業/家業	156	5.6%	39	1.6%
学生(留学を含む)	7	0.3%	17	0.7%
専業主婦(夫)	192	6.9%	141	5.9%
無職・失業中/休職中	343	12.4%	70	2.9%
その他	33	1.2%	21	0.9%
計	2,772	100.0%	2,383	100.0%
無回答	66		19	

表 3-1-2（男女別）

（単位：人）

区分	延滞者						無延滞者					
	男		女		計		男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社（職）員・従業員/常勤社（職）員・従業員	775	54.0%	351	26.3%	1,126	40.6%	978	84.1%	770	63.1%	1,748	73.4%
その他の社（職）員・従業員（パート・アルバイト、派遣、契約社員等）	370	25.8%	545	40.8%	915	33.0%	119	10.2%	228	18.7%	347	14.6%
自営業/家業	103	7.2%	53	4.0%	156	5.6%	22	1.9%	17	1.4%	39	1.6%
学生(留学を含む)	4	0.3%	3	0.2%	7	0.3%	4	0.3%	13	1.1%	17	0.7%
専業主婦(夫)	0	0.0%	192	14.4%	192	6.9%	0	0.0%	141	11.6%	141	5.9%
無職・失業中/休職中	168	11.7%	175	13.1%	343	12.4%	35	3.0%	35	2.9%	70	2.9%
その他	16	1.1%	17	1.3%	33	1.2%	5	0.4%	16	1.3%	21	0.9%
計	1,436	100.0%	1,336	100.0%	2,772	100.0%	1,163	100.0%	1,220	100.0%	2,383	100.0%
無回答	44		22		66		13		6		19	

## (参考) 延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
常勤社(職)員	1,185	40.6%	1,427	38.8%	1,475	36.2%	1,342	35.6%	1,410	34.5%
常勤社(職)員(雇用期限がある)	200	6.9%	245	6.7%	343	8.4%	247	6.6%	256	6.3%
非常勤社(職)員	598	20.5%	594	16.1%	598	14.7%	568	15.1%	542	13.3%
派遣社員	194	6.7%	241	6.5%	269	6.6%	253	6.7%	306	7.5%
自営業/家業	156	5.3%	180	4.9%	273	6.7%	229	6.1%	211	5.2%
学生(留学を含む)	12	0.4%	14	0.4%	30	0.7%	35	0.9%	48	1.2%
専業主婦(夫)	186	6.4%	241	6.5%	311	7.6%	269	7.1%	328	8.0%
無職・失業中/休職中	333	11.4%	572	15.5%	642	15.8%	686	18.2%	774	18.9%
その他	52	1.8%	168	4.6%	132	3.2%	141	3.7%	212	5.2%
計	2,916	100.0%	3,682	100.0%	4,073	100.0%	3,770	100.0%	4,087	100.0%
無回答	25		82		66		103			

## (参考) 無延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
常勤社(職)員	2,146	69.0%	1,522	70.3%	1,708	67.9%	1,594	64.5%	639	57.5%
常勤社(職)員(雇用期限がある)	146	4.7%	137	6.3%	141	5.6%	166	6.7%	61	5.5%
非常勤社(職)員	331	10.6%	161	7.4%	187	7.4%	207	8.4%	85	7.7%
派遣社員	77	2.5%	47	2.2%	74	2.9%	52	2.1%	33	3.0%
自営業/家業	77	2.5%	52	2.4%	63	2.5%	70	2.8%	24	2.2%
学生(留学を含む)	36	1.2%	29	1.3%	31	1.2%	100	4.0%	90	8.1%
専業主婦(夫)	168	5.4%	105	4.8%	153	6.1%	127	5.1%	82	7.4%
無職・失業中/休職中	122	3.9%	93	4.3%	134	5.3%	136	5.5%	71	6.4%
その他	9	0.3%	20	0.9%	23	0.9%	20	0.8%	26	2.3%
計	3,112	100.0%	2,166	100.0%	2,514	100.0%	2,472	100.0%	1,111	100.0%
無回答	6		4		8		5			

(2)本人の職業と年齢との関係

本人の職業と年齢との関連性をみた。

27年度と28年度を比較すると、20代～30代前半の層で「無職・失業中／休職中」が減少している。(表3-2-1、表3-2-2)

表3-2-1 本人の職業×年齢(延滞者)

(単位:人)

職業	～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社(職)員・従業員/常勤社(職)員・従業員	27	24.3%	161	38.2%	398	47.3%	246	42.1%	136	39.0%	92	35.9%	66	31.9%	1,126	40.6%
その他の社(職)員・従業員(パート・アルバイト、派遣、契約社員等)	55	49.5%	154	36.5%	247	29.3%	178	30.4%	126	36.1%	80	31.3%	75	36.2%	915	33.0%
自営業/家業	0	0.0%	13	3.1%	33	3.9%	30	5.1%	26	7.4%	33	12.9%	21	10.1%	156	5.6%
学生(留学を含む)	4	3.6%	2	0.5%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	0.3%
専業主婦(夫)	5	4.5%	33	7.8%	73	8.7%	47	8.0%	25	7.2%	8	3.1%	1	0.5%	192	6.9%
無職・失業中/休職中	19	17.1%	53	12.6%	80	9.5%	79	13.5%	32	9.2%	42	16.4%	38	18.4%	343	12.4%
その他	1	0.9%	6	1.4%	10	1.2%	5	0.9%	4	1.1%	1	0.4%	6	2.9%	33	1.2%
計	111	100.0%	422	100.0%	842	100.0%	585	100.0%	349	100.0%	256	100.0%	207	100.0%	2,772	100.0%
無回答	0		10		26		15		8		2		5		66	

(参考)27年度

(単位:人)

職業	～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
常勤社(職)員	36	27.7%	214	39.5%	528	42.9%	286	43.2%	82	36.1%	29	36.7%	10	21.7%	1,185	40.6%
常勤社(職)員(雇用期限がある)	8	6.2%	38	7.0%	90	7.3%	37	5.6%	19	8.4%	6	7.6%	2	4.3%	200	6.9%
非常勤社(職)員	40	30.8%	119	22.0%	236	19.2%	128	19.3%	45	19.8%	18	22.8%	12	26.1%	598	20.5%
派遣社員	8	6.2%	44	8.1%	82	6.7%	33	5.0%	18	7.9%	6	7.6%	3	6.5%	194	6.7%
自営業/家業	3	2.3%	9	1.7%	57	4.6%	49	7.4%	23	10.1%	8	10.1%	7	15.2%	156	5.3%
学生(留学を含む)	4	3.1%	1	0.2%	5	0.4%	1	0.2%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	12	0.4%
専業主婦(夫)	5	3.8%	41	7.6%	77	6.3%	53	8.0%	8	3.5%	1	1.3%	1	2.2%	186	6.4%
無職・失業中/休職中	23	17.7%	73	13.5%	129	10.5%	69	10.4%	23	10.1%	8	10.1%	8	17.4%	333	11.4%
その他	3	2.3%	3	0.6%	26	2.1%	6	0.9%	9	4.0%	2	2.5%	3	6.5%	52	1.8%
計	130	100.0%	542	100.0%	1,230	100.0%	662	100.0%	227	100.0%	79	100.0%	46	100.0%	2,916	100.0%
無回答	1		3		9		6		3		3		0		25	

表3-2-2 本人の職業×年齢(無延滞者)

(単位:人)

職業	～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社(職)員・従業員/常勤社(職)員・従業員	317	72.5%	706	74.9%	495	74.4%	177	72.2%	24	52.2%	19	67.9%	10	52.6%	1,748	73.4%
その他の社(職)員・従業員(パート・アルバイト、派遣、契約社員等)	77	17.6%	147	15.6%	73	11.0%	29	11.8%	11	23.9%	6	21.4%	4	21.1%	347	14.6%
自営業/家業	3	0.7%	9	1.0%	9	1.4%	9	3.7%	6	13.0%	2	7.1%	1	5.3%	39	1.6%
学生(留学を含む)	10	2.3%	4	0.4%	3	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	17	0.7%
専業主婦(夫)	9	2.1%	45	4.8%	62	9.3%	23	9.4%	1	2.2%	0	0.0%	1	5.3%	141	5.9%
無職・失業中/休職中	18	4.1%	28	3.0%	18	2.7%	3	1.2%	1	2.2%	1	3.6%	1	5.3%	70	2.9%
その他	3	0.7%	4	0.4%	5	0.8%	4	1.6%	3	6.5%	0	0.0%	2	10.5%	21	0.9%
計	437	100.0%	943	100.0%	665	100.0%	245	100.0%	46	100.0%	28	100.0%	19	100.0%	2,383	100.0%
無回答	6		5		4		4		0		0		0		19	

(参考)27年度

(単位:人)

職業	～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
常勤社(職)員	459	68.7%	864	70.6%	558	67.9%	207	69.5%	39	61.9%	12	52.2%	7	50.0%	2,146	69.0%
常勤社(職)員(雇用期限がある)	35	5.2%	55	4.5%	45	5.5%	7	2.3%	3	4.8%	1	4.3%	0	0.0%	146	4.7%
非常勤社(職)員	94	14.1%	124	10.1%	69	8.4%	25	8.4%	9	14.3%	6	26.1%	4	28.6%	331	10.6%
派遣社員	11	1.6%	35	2.9%	19	2.3%	10	3.4%	2	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	77	2.5%
自営業/家業	4	0.6%	18	1.5%	24	2.9%	16	5.4%	9	14.3%	3	13.0%	3	21.4%	77	2.5%
学生(留学を含む)	21	3.1%	9	0.7%	5	0.6%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	36	1.2%
専業主婦(夫)	9	1.3%	59	4.8%	79	9.6%	20	6.7%	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%	168	5.4%
無職・失業中/休職中	34	5.1%	57	4.7%	21	2.6%	9	3.0%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	122	3.9%
その他	1	0.1%	3	0.2%	2	0.2%	3	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	0.3%
計	668	100.0%	1,224	100.0%	822	100.0%	298	100.0%	63	100.0%	23	100.0%	14	100.0%	3,112	100.0%
無回答	2		2		2		0		0		0		0		6	

(3)本人の職業と学種との関係

本人の職業と貸与を受けた学種の関連性をみた。

正社（職）員の比率は、延滞者・無延滞者ともに高等専門学校、大学で他学種より高めである。

表 3-3-1 本人の職業×学種（延滞者）

（単位：人）

職業	学種	高等学校		高等専門学校		短期大学		大学		大学院		専修学校 専門課程		専修学校 高等課程		計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社(職)員・従業員/常勤社(職)員・従業員		176	33.1%	6	50.0%	67	29.5%	675	46.5%	33	27.3%	165	39.4%	4	40.0%	1,126	40.6%
その他の社(職)員・従業員 (パート・アルバイト、派遣、 契約社員等)		197	37.0%	3	25.0%	92	40.5%	411	28.3%	51	42.1%	156	37.2%	5	50.0%	915	33.0%
自営業/家業		13	2.4%	1	8.3%	9	4.0%	101	7.0%	17	14.0%	14	3.3%	1	10.0%	156	5.6%
学生(留学を含む)		1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.3%	0	0.0%	2	0.5%	0	0.0%	7	0.3%
専業主婦(夫)		49	9.2%	0	0.0%	35	15.4%	77	5.3%	1	0.8%	30	7.2%	0	0.0%	192	6.9%
無職・失業中/休職中		84	15.8%	2	16.7%	23	10.1%	168	11.6%	16	13.2%	50	11.9%	0	0.0%	343	12.4%
その他		12	2.3%	0	0.0%	1	0.4%	15	1.0%	3	2.5%	2	0.5%	0	0.0%	33	1.2%
計		532	100.0%	12	100.0%	227	100.0%	1,451	100.0%	121	100.0%	419	100.0%	10	100.0%	2,772	100.0%
無回答		15		1		1		33		3		12		1		66	

表 3-3-2 本人の職業×学種（無延滞者）

（単位：人）

職業	学種	高等学校		高等専門学校		短期大学		大学		大学院		専修学校 専門課程		専修学校 高等課程		計	
		人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
正社(職)員・従業員/常勤社(職)員・従業員		42	73.7%	83	88.3%	88	60.7%	1,064	75.0%	229	84.5%	222	60.7%	20	62.5%	1,748	73.4%
その他の社(職)員・従業員 (パート・アルバイト、派遣、 契約社員等)		9	15.8%	5	5.3%	30	20.7%	196	13.8%	20	7.4%	80	21.9%	7	21.9%	347	14.6%
自営業/家業		0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	22	1.6%	8	3.0%	7	1.9%	1	3.1%	39	1.6%
学生(留学を含む)		0	0.0%	0	0.0%	2	1.4%	11	0.8%	1	0.4%	3	0.8%	0	0.0%	17	0.7%
専業主婦(夫)		6	10.5%	3	3.2%	19	13.1%	77	5.4%	6	2.2%	27	7.4%	3	9.4%	141	5.9%
無職・失業中/休職中		0	0.0%	2	2.1%	4	2.8%	37	2.6%	5	1.8%	21	5.7%	1	3.1%	70	2.9%
その他		0	0.0%	1	1.1%	1	0.7%	11	0.8%	2	0.7%	6	1.6%	0	0.0%	21	0.9%
計		57	100.0%	94	100.0%	145	100.0%	1,418	100.0%	271	100.0%	366	100.0%	32	100.0%	2,383	100.0%
無回答		0		1		2		11		1		4		0		19	



#### 4 奨学生本人の年収について

##### (1)本人の年収（択一）

本人の年収については「年収 300 万円未満」と回答した比率は、延滞者では合計 73.1%であるのに対し無延滞者では合計 48.7%と、差がみられる。なお、当該所得層の比率は、延滞者、無延滞者ともに平成 23 年度以降は減少傾向にあり（平成 23 年度は延滞者：83.4%、無延滞者：66.5%）、特に無延滞者は、「年収 300 万円以上」が「年収 300 万円未満」をわずかに上回った。

表 4-1-1

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
0円	356	12.8%	132	5.5%
1円～100万円未満	443	15.9%	143	6.0%
100万～200万円未満	619	22.2%	340	14.2%
200万～300万円未満	620	22.2%	547	22.9%
300万～400万円未満	355	12.7%	507	21.2%
400万～500万円未満	183	6.6%	315	13.2%
500万～600万円未満	91	3.3%	163	6.8%
600万～700万円未満	31	1.1%	81	3.4%
700万～800万円未満	12	0.4%	56	2.3%
800万～900万円未満	4	0.1%	29	1.2%
900万円以上	8	0.3%	44	1.8%
わからない	67	2.4%	31	1.3%
計	2,789	100.0%	2,388	100.0%
無回答	49		14	

(参考) 延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	334	11.7%	500	14.1%	592	15.1%	668	18.0%	743	18.5%
1円～100万円未満	485	17.0%	687	19.4%	754	19.3%	720	19.4%	841	20.9%
100万～200万円未満	726	25.4%	859	24.2%	937	24.0%	949	25.6%	954	23.7%
200万～300万円未満	657	23.0%	727	20.5%	852	21.8%	741	20.0%	817	20.3%
300万～400万円未満	390	13.6%	437	12.3%	430	11.0%	376	10.1%	414	10.3%
400万～500万円未満	163	5.7%	175	4.9%	198	5.1%				
500万～600万円未満	65	2.3%	80	2.3%	82	2.1%				
600万～700万円未満	22	0.8%	35	1.0%	34	0.9%				
700万～800万円未満	8	0.3%	22	0.6%	15	0.4%				
800万～900万円未満	5	0.2%	9	0.3%	5	0.1%				
900万～1000万円未満	3	0.1%	7	0.2%	9	0.2%				
1000万円以上	1	0.0%	5	0.1%	4	0.1%	252	6.8%	255	6.3%
計	2,859	100.0%	3,543	100.0%	3,912	100.0%	3,706	100.0%	4,024	100.0%
無回答	82		221		227		167			

(参考) 無延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	181	5.9%	135	6.3%	167	6.7%	201	8.2%	129	11.7%
1円～100万円未満	241	7.8%	153	7.2%	232	9.3%	227	9.3%	151	13.7%
100万～200万円未満	483	15.7%	334	15.6%	382	15.4%	390	16.0%	189	17.2%
200万～300万円未満	812	26.4%	552	25.8%	636	25.6%	647	26.5%	262	23.8%
300万～400万円未満	571	18.6%	450	21.1%	486	19.6%	449	18.4%	185	16.8%
400万～500万円未満	354	11.5%	226	10.6%	287	11.6%				
500万～600万円未満	198	6.4%	135	6.3%	127	5.1%				
600万～700万円未満	95	3.1%	73	3.4%	67	2.7%				
700万～800万円未満	59	1.9%	35	1.6%	40	1.6%				
800万～900万円未満	26	0.8%	15	0.7%	13	0.5%				
900万～1000万円未満	19	0.6%	13	0.6%	12	0.5%				
1000万円以上	34	1.1%	16	0.7%	34	1.4%	529	21.7%	184	16.7%
計	3,073	100.0%	2,137	100.0%	2,483	100.0%	2,443	100.0%	1,100	100.0%
無回答	45		33		39		34			

男女別でみると、「年収 0～100 万円未満」と回答した者は、延滞者では男性 17.7%、女性 40.5%、無延滞者では男性 3.8%、女性 18.9%となっている。(表 4-1-2)

表 4-1-2 本人の年収×男女別

(単位:人)

区分	延滞者						無延滞者					
	男		女		計		男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	105	7.2%	251	18.8%	356	12.8%	14	1.2%	118	9.7%	132	5.5%
1円～100万円未満	153	10.5%	290	21.7%	443	15.9%	31	2.6%	112	9.2%	143	6.0%
100万～200万円未満	250	17.2%	369	27.6%	619	22.2%	109	9.3%	231	19.0%	340	14.2%
200万～300万円未満	363	25.0%	257	19.2%	620	22.2%	218	18.6%	329	27.0%	547	22.9%
300万～400万円未満	273	18.8%	82	6.1%	355	12.7%	267	22.8%	240	19.7%	507	21.2%
400万～500万円未満	140	9.6%	43	3.2%	183	6.6%	199	17.0%	116	9.5%	315	13.2%
500万～600万円未満	78	5.4%	13	1.0%	91	3.3%	129	11.0%	34	2.8%	163	6.8%
600万～700万円未満	30	2.1%	1	0.1%	31	1.1%	69	5.9%	12	1.0%	81	3.4%
700万～800万円未満	9	0.6%	3	0.2%	12	0.4%	49	4.2%	7	0.6%	56	2.3%
800万～900万円未満	3	0.2%	1	0.1%	4	0.1%	27	2.3%	2	0.2%	29	1.2%
900万円以上	8	0.6%	0	0.0%	8	0.3%	38	3.2%	6	0.5%	44	1.8%
わからない	39	2.7%	28	2.1%	67	2.4%	20	1.7%	11	0.9%	31	1.3%
計	1,451	100.0%	1,338	100.0%	2,789	100.0%	1,170	100.0%	1,218	100.0%	2,388	100.0%
無回答	29		20		49		6		8		14	

(2)本人の年収と職業との関係

本人の年収と職業との関連性をみた。

職業別でみると、延滞者、無延滞者ともに「正社(職)員」は「200万～400万円未満」、「その他の社(職)員」は「100万～200万円未満」の比率が高くなっている。(表 4-2-1、表 4-2-2)

表 4-2-1 本人の年収×職業(延滞者)

(単位:人)

年収	職業		正社(職)員・従業員/常勤社(職)員・従業員		その他の社(職)員・従業員(パート・アルバイト、派遣、契約社員等)		自営業/家業		学生(留学を含む)		専業主婦(夫)		無職・失業中/休職中		その他		計		無回答
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数
0円	3	0.3%	3	0.3%	6	3.9%	3	42.9%	154	81.9%	172	51.0%	6	18.2%	347	12.7%	9		
1円～100万円未満	19	1.7%	255	28.3%	50	32.7%	2	28.6%	21	11.2%	80	23.7%	12	36.4%	439	16.1%	4		
100万～200万円未満	145	13.0%	363	40.3%	44	28.8%	1	14.3%	7	3.7%	40	11.9%	9	27.3%	609	22.3%	10		
200万～300万円未満	351	31.5%	207	23.0%	28	18.3%	1	14.3%	1	0.5%	18	5.3%	2	6.1%	608	22.2%	12		
300万～400万円未満	283	25.4%	46	5.1%	11	7.2%	0	0.0%	1	0.5%	8	2.4%	0	0.0%	349	12.8%	6		
400万～500万円未満	163	14.6%	10	1.1%	5	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%	0	0.0%	180	6.6%	3		
500万～600万円未満	81	7.3%	3	0.3%	6	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.0%	91	3.3%	0		
600万～700万円未満	28	2.5%	1	0.1%	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	31	1.1%	0		
700万～800万円未満	12	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	0.4%	0		
800万～900万円未満	3	0.3%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.1%	0		
900万円以上	8	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	0.3%	0		
わからない	18	1.6%	13	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.1%	17	5.0%	3	9.1%	55	2.0%	12		
計	1,114	100.0%	901	100.0%	153	100.0%	7	100.0%	188	100.0%	337	100.0%	33	100.0%	2,733	100.0%	56		
無回答	12		14		3		0		4		6		0		39		10		

表 4-2-2 本人の年収×職業(無延滞者)

(単位:人)

年収	職業		正社(職)員・従業員/常勤社(職)員・従業員		その他の社(職)員・従業員(パート・アルバイト、派遣、契約社員等)		自営業/家業		学生(留学を含む)		専業主婦(夫)		無職・失業中/休職中		その他		計		無回答
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数
0円	3	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	7	41.2%	98	70.0%	20	28.6%	4	19.0%	132	5.6%	0		
1円～100万円未満	11	0.6%	64	18.6%	11	28.9%	5	29.4%	26	18.6%	19	27.1%	6	28.6%	142	6.0%	1		
100万～200万円未満	147	8.5%	154	44.6%	2	5.3%	3	17.6%	8	5.7%	15	21.4%	5	23.8%	334	14.1%	6		
200万～300万円未満	439	25.2%	83	24.1%	6	15.8%	1	5.9%	5	3.6%	9	12.9%	0	0.0%	543	22.9%	4		
300万～400万円未満	471	27.1%	24	7.0%	2	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	5.7%	2	9.5%	503	21.2%	4		
400万～500万円未満	300	17.3%	7	2.0%	4	10.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	1	4.8%	313	13.2%	2		
500万～600万円未満	157	9.0%	4	1.2%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	163	6.9%	0		
600万～700万円未満	77	4.4%	1	0.3%	2	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	80	3.4%	1		
700万～800万円未満	54	3.1%	1	0.3%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	56	2.4%	0		
800万～900万円未満	27	1.6%	1	0.3%	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	29	1.2%	0		
900万円以上	36	2.1%	0	0.0%	7	18.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	44	1.9%	0		
わからない	17	1.0%	6	1.7%	1	2.6%	1	5.9%	3	2.1%	1	1.4%	2	9.5%	31	1.3%	0		
計	1,739	100.0%	345	100.0%	38	100.0%	17	100.0%	140	100.0%	70	100.0%	21	100.0%	2,370	100.0%	18		
無回答	9		2		1		0		1		0		0		13		1		

(3)本人の年収と年齢との関係

本人の年収と年齢との関連性をみた。

年齢別では、延滞者では年齢が上がっても年収にあまり変化がみられないのに対し、無延滞者では年齢層が上がるとともに年収も上昇している。(表 4-3-1、表 4-3-2)

表 4-3-1 本人の年収×年齢 (延滞者)

(単位:人)

年収	年齢		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	17	15.5%	51	11.9%	109	12.7%	80	13.6%	38	10.8%	36	14.5%	25	12.3%	356	12.8%
1円～100万円未満	32	29.1%	91	21.3%	121	14.1%	84	14.3%	46	13.1%	34	13.7%	35	17.2%	443	15.9%
100万～200万円未満	31	28.2%	109	25.5%	169	19.7%	125	21.3%	95	27.0%	47	19.0%	43	21.2%	619	22.2%
200万～300万円未満	25	22.7%	106	24.8%	201	23.4%	116	19.7%	83	23.6%	52	21.0%	37	18.2%	620	22.2%
300万～400万円未満	4	3.6%	45	10.5%	150	17.4%	70	11.9%	37	10.5%	26	10.5%	23	11.3%	355	12.7%
400万～500万円未満	0	0.0%	16	3.7%	67	7.8%	54	9.2%	15	4.3%	19	7.7%	12	5.9%	183	6.6%
500万～600万円未満	0	0.0%	3	0.7%	22	2.6%	28	4.8%	15	4.3%	17	6.9%	6	3.0%	91	3.3%
600万～700万円未満	0	0.0%	0	0.0%	7	0.8%	6	1.0%	7	2.0%	5	2.0%	6	3.0%	31	1.1%
700万～800万円未満	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	1	0.2%	3	0.9%	5	2.0%	2	1.0%	12	0.4%
800万～900万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	1	0.3%	0	0.0%	2	1.0%	4	0.1%
900万円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.4%	6	3.0%	8	0.3%
わからない	1	0.9%	7	1.6%	13	1.5%	22	3.7%	12	3.4%	6	2.4%	6	3.0%	67	2.4%
計	110	100.0%	428	100.0%	860	100.0%	588	100.0%	352	100.0%	248	100.0%	203	100.0%	2,789	100.0%
無回答	1		4		8		12		5		10		9		49	

表 4-3-2 本人の年収×年齢 (無延滞者)

(単位:人)

年収	年齢		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0円	16	3.6%	31	3.3%	60	9.0%	22	9.0%	1	2.2%	1	3.7%	1	5.6%	132	5.5%
1円～100万円未満	31	7.0%	59	6.2%	38	5.7%	8	3.3%	6	13.3%	1	3.7%	0	0.0%	143	6.0%
100万～200万円未満	133	30.2%	131	13.8%	48	7.2%	16	6.5%	6	13.3%	3	11.1%	3	16.7%	340	14.2%
200万～300万円未満	169	38.4%	250	26.4%	102	15.3%	19	7.8%	4	8.9%	2	7.4%	1	5.6%	547	22.9%
300万～400万円未満	66	15.0%	286	30.2%	108	16.2%	36	14.7%	3	6.7%	3	11.1%	5	27.8%	507	21.2%
400万～500万円未満	11	2.5%	121	12.8%	140	21.0%	38	15.5%	3	6.7%	1	3.7%	1	5.6%	315	13.2%
500万～600万円未満	3	0.7%	43	4.5%	76	11.4%	32	13.1%	4	8.9%	2	7.4%	3	16.7%	163	6.8%
600万～700万円未満	2	0.5%	6	0.6%	41	6.2%	22	9.0%	4	8.9%	6	22.2%	0	0.0%	81	3.4%
700万～800万円未満	0	0.0%	7	0.7%	27	4.1%	15	6.1%	4	8.9%	3	11.1%	0	0.0%	56	2.3%
800万～900万円未満	1	0.2%	0	0.0%	10	1.5%	16	6.5%	2	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	29	1.2%
900万円以上	1	0.2%	4	0.4%	7	1.1%	18	7.3%	7	15.6%	4	14.8%	3	16.7%	44	1.8%
わからない	7	1.6%	9	1.0%	9	1.4%	3	1.2%	1	2.2%	1	3.7%	1	5.6%	31	1.1%
計	440	100.0%	947	100.0%	666	100.0%	245	100.0%	45	100.0%	27	100.0%	18	100.0%	2,388	100.0%
無回答	3		1		3		4		1		1		1		14	

(4)本人の年収と学種との関係

本人の年収と、貸与学種との関連性をみた。

表 4-4 本人の学種×年収×男女別  
(高等学校・高等専門学校・短期大学)

(単位:人)

区分	延滞者						無延滞者						
	男		女		計		男		女		計		
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
高等学校	0円	28	14.8%	71	20.5%	99	18.5%	0	0.0%	4	12.9%	4	7.0%
	1円～100万円未満	26	13.8%	81	23.3%	107	20.0%	0	0.0%	6	19.4%	6	10.5%
	100万～200万円未満	37	19.6%	103	29.7%	140	26.1%	0	0.0%	6	19.4%	6	10.5%
	200万～300万円未満	54	28.6%	60	17.3%	114	21.3%	2	7.7%	6	19.4%	8	14.0%
	300万～400万円未満	24	12.7%	14	4.0%	38	7.1%	4	15.4%	4	12.9%	8	14.0%
	400万～500万円未満	10	5.3%	5	1.4%	15	2.8%	11	42.3%	5	16.1%	16	28.1%
	500万～600万円未満	3	1.6%	1	0.3%	4	0.7%	6	23.1%	0	0.0%	6	10.5%
	600万～700万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	7.7%	0	0.0%	2	3.5%
	700万～800万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	800万～900万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	900万円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	1	1.8%
	わからない	7	3.7%	12	3.5%	19	3.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	189	100.0%	347	100.0%	536	100.0%	26	100.0%	31	100.0%	57	100.0%
無回答	5		6		11		0		0		0		
高等専門学校	0円	2	16.7%	0	-	2	16.7%	0	0.0%	3	18.8%	3	3.2%
	1円～100万円未満	0	0.0%	0	-	0	0.0%	1	1.3%	1	6.3%	2	2.1%
	100万～200万円未満	1	8.3%	0	-	1	8.3%	3	3.8%	2	12.5%	5	5.3%
	200万～300万円未満	4	33.3%	0	-	4	33.3%	18	22.8%	4	25.0%	22	23.2%
	300万～400万円未満	1	8.3%	0	-	1	8.3%	22	27.8%	3	18.8%	25	26.3%
	400万～500万円未満	2	16.7%	0	-	2	16.7%	12	15.2%	2	12.5%	14	14.7%
	500万～600万円未満	1	8.3%	0	-	1	8.3%	8	10.1%	1	6.3%	9	9.5%
	600万～700万円未満	0	0.0%	0	-	0	0.0%	5	6.3%	0	0.0%	5	5.3%
	700万～800万円未満	0	0.0%	0	-	0	0.0%	4	5.1%	0	0.0%	4	4.2%
	800万～900万円未満	0	0.0%	0	-	0	0.0%	2	2.5%	0	0.0%	2	2.1%
	900万円以上	1	8.3%	0	-	1	8.3%	1	1.3%	0	0.0%	1	1.1%
	わからない	0	0.0%	0	-	0	0.0%	3	3.8%	0	0.0%	3	3.2%
	計	12	100.0%	0	-	12	100.0%	79	100.0%	16	100.0%	95	100.0%
無回答	0		1		1		0		0		0		
短期大学	0円	3	13.0%	39	19.1%	42	18.5%	0	0.0%	16	12.6%	16	11.0%
	1円～100万円未満	4	17.4%	46	22.5%	50	22.0%	1	5.6%	11	8.7%	12	8.3%
	100万～200万円未満	4	17.4%	54	26.5%	58	25.6%	4	22.2%	42	33.1%	46	31.7%
	200万～300万円未満	4	17.4%	52	25.5%	56	24.7%	9	50.0%	37	29.1%	46	31.7%
	300万～400万円未満	3	13.0%	7	3.4%	10	4.4%	4	22.2%	13	10.2%	17	11.7%
	400万～500万円未満	2	8.7%	5	2.5%	7	3.1%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.7%
	500万～600万円未満	2	8.7%	0	0.0%	2	0.9%	0	0.0%	4	3.1%	4	2.8%
	600万～700万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	700万～800万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	800万～900万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	900万円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	わからない	1	4.3%	1	0.5%	2	0.9%	0	0.0%	3	2.4%	3	2.1%
	計	23	100.0%	204	100.0%	227	100.0%	18	100.0%	127	100.0%	145	100.0%
無回答	0		1		1		1		1		2		

## (大学・大学院)

(単位:人)

区分	延滞者						無延滞者						
	男		女		計		男		女		計		
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
大学	0円	60	6.3%	97	19.2%	157	10.8%	10	1.4%	64	8.8%	74	5.2%
	1円～100万円未満	84	8.8%	102	20.2%	186	12.7%	19	2.7%	61	8.4%	80	5.6%
	100万～200万円未満	153	16.1%	128	25.3%	281	19.3%	66	9.5%	112	15.4%	178	12.5%
	200万～300万円未満	233	24.4%	84	16.6%	317	21.7%	127	18.3%	213	29.4%	340	24.0%
	300万～400万円未満	191	20.0%	47	9.3%	238	16.3%	170	24.5%	165	22.8%	335	23.6%
	400万～500万円未満	107	11.2%	22	4.3%	129	8.8%	134	19.3%	74	10.2%	208	14.7%
	500万～600万円未満	61	6.4%	10	2.0%	71	4.9%	67	9.7%	18	2.5%	85	6.0%
	600万～700万円未満	27	2.8%	0	0.0%	27	1.9%	37	5.3%	7	1.0%	44	3.1%
	700万～800万円未満	7	0.7%	2	0.4%	9	0.6%	22	3.2%	3	0.4%	25	1.8%
	800万～900万円未満	2	0.2%	1	0.2%	3	0.2%	14	2.0%	1	0.1%	15	1.1%
	900万円以上	6	0.6%	0	0.0%	6	0.4%	18	2.6%	4	0.6%	22	1.6%
	わからない	22	2.3%	13	2.6%	35	2.4%	10	1.4%	3	0.4%	13	0.9%
	計	953	100.0%	506	100.0%	1,459	100.0%	694	100.0%	725	100.0%	1,419	100.0%
	無回答	18		7		25		4		6		10	
大学院	0円	4	4.7%	1	2.9%	5	4.2%	1	0.5%	6	7.6%	7	2.6%
	1円～100万円未満	13	15.3%	7	20.6%	20	16.8%	1	0.5%	3	3.8%	4	1.5%
	100万～200万円未満	15	17.6%	9	26.5%	24	20.2%	4	2.1%	4	5.1%	8	3.0%
	200万～300万円未満	17	20.0%	8	23.5%	25	21.0%	10	5.2%	17	21.5%	27	10.0%
	300万～400万円未満	13	15.3%	4	11.8%	17	14.3%	29	15.1%	18	22.8%	47	17.3%
	400万～500万円未満	7	8.2%	0	0.0%	7	5.9%	25	13.0%	15	19.0%	40	14.8%
	500万～600万円未満	8	9.4%	1	2.9%	9	7.6%	43	22.4%	4	5.1%	47	17.3%
	600万～700万円未満	2	2.4%	1	2.9%	3	2.5%	23	12.0%	5	6.3%	28	10.3%
	700万～800万円未満	2	2.4%	1	2.9%	3	2.5%	23	12.0%	4	5.1%	27	10.0%
	800万～900万円未満	1	1.2%	0	0.0%	1	0.8%	11	5.7%	1	1.3%	12	4.4%
	900万円以上	1	1.2%	0	0.0%	1	0.8%	18	9.4%	2	2.5%	20	7.4%
	わからない	2	2.4%	2	5.9%	4	3.4%	4	2.1%	0	0.0%	4	1.5%
	計	85	100.0%	34	100.0%	119	100.0%	192	100.0%	79	100.0%	271	100.0%
	無回答	4		1		5		1		0		1	

## (専修学校専門課程・専修学校高等課程)

(単位:人)

区分	延滞者						無延滞者						
	男		女		計		男		女		計		
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
専修学校専門課程	0円	8	4.3%	41	17.1%	49	11.5%	3	2.0%	22	10.0%	25	6.8%
	1円～100万円未満	25	13.4%	51	21.3%	76	17.8%	9	6.0%	28	12.8%	37	10.0%
	100万～200万円未満	39	21.0%	74	30.8%	113	26.5%	31	20.5%	62	28.3%	93	25.1%
	200万～300万円未満	51	27.4%	52	21.7%	103	24.2%	50	33.1%	51	23.3%	101	27.3%
	300万～400万円未満	40	21.5%	10	4.2%	50	11.7%	33	21.9%	33	15.1%	66	17.8%
	400万～500万円未満	12	6.5%	11	4.6%	23	5.4%	16	10.6%	14	6.4%	30	8.1%
	500万～600万円未満	3	1.6%	1	0.4%	4	0.9%	4	2.6%	5	2.3%	9	2.4%
	600万～700万円未満	1	0.5%	0	0.0%	1	0.2%	2	1.3%	0	0.0%	2	0.5%
	700万～800万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	800万～900万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	900万円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	わからない	7	3.8%	0	0.0%	7	1.6%	3	2.0%	4	1.8%	7	1.9%
	計	186	100.0%	240	100.0%	426	100.0%	151	100.0%	219	100.0%	370	100.0%
	無回答	2		3		5		0		0		0	
専修学校高等課程	0円	0	0.0%	2	28.6%	2	20.0%	0	0.0%	3	14.3%	3	9.7%
	1円～100万円未満	1	33.3%	3	42.9%	4	40.0%	0	0.0%	2	9.5%	2	6.5%
	100万～200万円未満	1	33.3%	1	14.3%	2	20.0%	1	10.0%	3	14.3%	4	12.9%
	200万～300万円未満	0	0.0%	1	14.3%	1	10.0%	2	20.0%	1	4.8%	3	9.7%
	300万～400万円未満	1	33.3%	0	0.0%	1	10.0%	5	50.0%	4	19.0%	9	29.0%
	400万～500万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	5	23.8%	6	19.4%
	500万～600万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	2	9.5%	3	9.7%
	600万～700万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	700万～800万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	800万～900万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	900万円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	1	3.2%
	計	3	100.0%	7	100.0%	10	100.0%	10	100.0%	21	100.0%	31	100.0%
	無回答	0		1		1		0		1		1	

5 延滞の理由と今後の返還の見通しについて※延滞者にのみ質問。

(1)延滞が始まった理由（きっかけ）

延滞が始まった理由（きっかけ）は、「家計の収入が減った」が69.2%（複数回答）で最も高く、次いで「家計の支出が増えた」43.0%、「入院、事故、災害等にあったため」19.2%、「忙しかった」14.3%となっている。（表5-1-1）

経年変化をみると、多少の増減はあるものの全体としての傾向は変わっていない。

なお、「最たる理由（択一）」でも「家計の収入が減った」が44.2%で最も高い。（表5-1-2）男女別に顕著な差はみられない。

表5-1-1 延滞が始まった理由（複数）×男女別（単位：人）

区分	男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
忙しかった(金融機関に行くことができなかったなど)	189	12.9%	215	15.9%	404	14.3%
返還を忘れていた、口座残高をまちがえていたなどのミス	153	10.4%	144	10.7%	297	10.5%
家計の収入が減った	972	66.3%	976	72.2%	1,948	69.2%
家計の支出が増えた	615	42.0%	595	44.0%	1,210	43.0%
入院、事故、災害等にあったため	285	19.5%	255	18.9%	540	19.2%
奨学金は返還するものだとは思っていなかった	59	4.0%	65	4.8%	124	4.4%
その他	427	29.1%	412	30.5%	839	29.8%
回答者数	1,465	-	1,352	-	2,817	-
無回答	15		6		21	

（参考）※平成25年度までは2つまで、平成26年度以降はあてはまるもの全て選択。（単位：人）

区分	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
忙しかった(金融機関に行くことができなかったなど)	632	23.1%	511	13.9%	332	8.2%	366	9.6%	406	9.9%
返還を忘れていた、口座残高をまちがえていたなどのミス	488	17.9%	404	11.0%	295	7.3%	370	9.7%	341	8.3%
家計の収入が減った	2,081	76.1%	2,562	69.4%	2,948	72.9%	2,945	77.0%	3,095	75.3%
家計の支出が増えた	1,391	50.9%	1,547	41.9%	1,397	34.5%	1,503	39.3%	1,595	38.8%
入院、事故、災害等にあったため	617	22.6%	850	23.0%	732	18.1%	765	20.0%	729	17.7%
奨学金は返還するものだとは思っていなかった	123	4.5%	91	2.5%	110	2.7%	138	3.6%	85	2.1%
その他	617	22.6%	936	25.4%	1,146	28.3%	264	6.9%	499	12.1%
回答者数	2,733	-	3,689	-	4,046	-	3,823	-	4,111	-
無回答	208		75		93		50			

表5-1-2 延滞が始まった最たる理由（択一）×男女別

区分	男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
忙しかった(金融機関に行くことができなかったなど)	36	2.5%	41	3.2%	77	2.8%
返還を忘れていた、口座残高をまちがえていたなどのミス	50	3.5%	39	3.0%	89	3.3%
家計の収入が減った	616	43.4%	585	45.0%	1,201	44.2%
家計の支出が増えた	256	18.0%	224	17.2%	480	17.7%
入院、事故、災害等にあったため	95	6.7%	89	6.9%	184	6.8%
奨学金は返還するものだとは思っていなかった	30	2.1%	24	1.8%	54	2.0%
その他	337	23.7%	297	22.9%	634	23.3%
計	1,420	100.0%	1,299	100.0%	2,719	100.0%
無回答	60		59		119	

(2)延滞が継続している理由

延滞が継続している理由については、「本人の低所得」と回答した者が64.5%で最も高い（複数回答）。次いで「奨学金の延滞額の増加」47.5%、「本人の借入金の返済」30.9%となっている。男女別にみると、男性は女性と比べて「本人の借入金の返済」が10ポイント以上高く、女性は「本人親の経済困難(本人の親が返還する約束をしている)」、「本人の配偶者の経済困難」などが、男性よりも高くなっている。（表5-2-1）

昨年度と比べて比率が5ポイント以上増えているのは「本人が失業中（無職）」(+9.7%)、逆に5ポイント以上減っているのは「奨学金の延滞額の増加」（-6.3%）である。

表5-2-1 延滞が継続している理由（複数）×男女別（単位：人）

区分	男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	931	63.5%	886	65.5%	1,817	64.5%
本人が失業中(無職)	393	26.8%	378	27.9%	771	27.4%
本人が学生(留学を含む)	29	2.0%	27	2.0%	56	2.0%
本人が病気療養中	153	10.4%	171	12.6%	324	11.5%
本人の借入金の返済	527	36.0%	343	25.4%	870	30.9%
本人親の経済困難 (本人が親への経済援助をしており支出が多い)	371	25.3%	357	26.4%	728	25.8%
本人親の経済困難 (本人の親が返還する約束をしている)	321	21.9%	369	27.3%	690	24.5%
本人の配偶者の経済困難	89	6.1%	167	12.3%	256	9.1%
家族の病気療養	236	16.1%	228	16.9%	464	16.5%
忙しい(金融機関に行けない等)	112	7.6%	121	8.9%	233	8.3%
奨学金の延滞額の増加	668	45.6%	670	49.5%	1,338	47.5%
奨学金は返還するものだとは思っていない	26	1.8%	27	2.0%	53	1.9%
その他	120	8.2%	125	9.2%	245	8.7%
回答者数	1,465	-	1,353	-	2,818	-
無回答	15		5		20	

(参考) ※平成25年度までは2つまで選択、平成26年度以降はあてはまるもの全て選択。（単位：人）

区分	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	1,838	67.2%	1,883	51.6%	2,049	51.1%	1,797	47.5%	1,982	49.3%
本人が失業中(無職)	483	17.7%	606	16.6%	605	15.1%	699	18.5%	769	19.1%
本人が学生(留学を含む)	37	1.4%	28	0.8%	30	0.7%	39	1.0%	45	1.1%
本人が病気療養中	194	7.1%	274	7.5%	212	5.3%	249	6.6%	249	6.2%
本人の借入金の返済	952	34.8%	948	26.0%	796	19.8%	818	21.6%	788	19.6%
本人親の経済困難 (本人が親への経済援助をしており支出が多い)	815	29.8%	944	25.9%	758	18.9%	1,317	34.8%	1,425	35.5%
本人親の経済困難 (本人の親が返還する約束をしている)	568	20.8%	738	20.2%	710	17.7%				
本人の配偶者の経済困難	250	9.1%	330	9.0%	218	5.4%	218	5.8%	198	4.9%
家族の病気療養	355	13.0%	445	12.2%	230	5.7%	277	7.3%	316	7.9%
忙しい(金融機関に行けない等)	264	9.7%	258	7.1%	139	3.5%	156	4.1%	155	3.9%
奨学金の延滞額の増加	1,472	53.8%	1,707	46.8%	1,201	29.9%	1,218	32.2%	1,149	28.6%
奨学金は返還するものだとは思っていない	42	1.5%	21	0.6%	19	0.5%	12	0.3%	9	0.2%
その他	200	7.3%	311	8.5%	262	6.5%	69	1.8%	153	3.8%
回答者数	2,734	-	3,649	-	4,013	-	3,786	-	4,017	-
無回答	207		115		126		87			

「延滞が継続している最たる理由（択一）」においても「本人の低所得」と回答した者が 32.0% で最も高く、次いで「奨学金の延滞額の増加」13.7%、「本人の借入金の返済」9.0%と上位の理由は複数回答と同じである。（表 5-2-2）

表 5-2-2 延滞が継続している最たる理由（択一）×男女別  
(単位:人)

区分	男		女		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	481	33.5%	402	30.4%	883	32.0%
本人が失業中(無職)	139	9.7%	111	8.4%	250	9.1%
本人が学生(留学を含む)	11	0.8%	7	0.5%	18	0.7%
本人が病気療養中	49	3.4%	53	4.0%	102	3.7%
本人の借入金の返済	155	10.8%	94	7.1%	249	9.0%
本人親の経済困難 (本人が親への経済援助をしており支出が多い)	120	8.4%	123	9.3%	243	8.8%
本人親の経済困難 (本人の親が返還する約束をしている)	109	7.6%	155	11.7%	264	9.6%
本人の配偶者の経済困難	16	1.1%	53	4.0%	69	2.5%
家族の病気療養	45	3.1%	37	2.8%	82	3.0%
忙しい(金融機関に行けない等)	28	2.0%	27	2.0%	55	2.0%
奨学金の延滞額の増加	194	13.5%	183	13.8%	377	13.7%
奨学金は返還するものだとは思っていない	12	0.8%	6	0.5%	18	0.7%
その他	76	5.3%	71	5.4%	147	5.3%
回答者数	1,435	100.0%	1,322	100.0%	2,757	100.0%
無回答	45		36		81	

「本人の低所得」を延滞継続の理由（複数）とする者の本人の年収をみると、「年収 300 万円未満」が 80.4% を占める（延滞者全体：73.1%）。また、「年収 200 万円未満」は 54.9%（延滞者全体：50.9%）である。

表 5-2-3 本人の年収×「本人の低所得」（複数）  
(単位:人)

区分	延滞継続理由「本人の低所得」と回答した者の年収			延滞者の年収(再掲)		
	人数	比率	比率	人数	比率	比率
0円	121	6.7%	80.4%	356	12.8%	73.1%
100万円未満	354	19.7%		443	15.9%	
100万～200万円未満	513	28.5%		619	22.2%	
200万～300万円未満	457	25.4%		620	22.2%	
300万～400万円未満	205	11.4%	18.2%	355	12.7%	24.5%
400万～500万円未満	74	4.1%		183	6.6%	
500万～600万円未満	34	1.9%		91	3.3%	
600万～700万円未満	12	0.7%		31	1.1%	
700万～800万円未満	0	0.0%		12	0.4%	
800万～900万円未満	1	0.1%		4	0.1%	
900万円以上	1	0.1%		8	0.3%	
わからない	26	1.4%	1.4%	67	2.4%	2.4%
計	1,798	100.0%	100.0%	2,789	100.0%	100.0%
無回答	19			49		



(3)延滞が継続している理由と始まった理由（きっかけ）との関係  
延滞が継続している理由と始まった理由との関連性をみた。

延滞が始まった理由がいずれである場合も、その後延滞が継続している理由は「本人の低所得」、  
「本人の借入金の返済」の比率が高い。

表 5-3 延滞が継続している理由（複数）×延滞が始まった理由（複数）（単位：人）

継続している理由 \ 始まった理由	忙しかった		返還を忘れていた		収入が減った		支出が増えた	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	278	69.2%	183	61.8%	1,429	73.5%	796	65.9%
本人が失業中(無職)	101	25.1%	69	23.3%	603	31.0%	272	22.5%
本人が学生(留学を含む)	14	3.5%	7	2.4%	35	1.8%	17	1.4%
本人が病気療養中	32	8.0%	22	7.4%	227	11.7%	115	9.5%
本人の借入金の返済	151	37.6%	87	29.4%	629	32.4%	505	41.8%
本人親の経済困難 (本人が親への経済援助をしており支出が多い)	105	26.1%	61	20.6%	511	26.3%	401	33.2%
本人親の経済困難 (本人の親が返還する約束をしている)	64	15.9%	43	14.5%	477	24.5%	257	21.3%
本人の配偶者の経済困難	35	8.7%	15	5.1%	190	9.8%	158	13.1%
家族の病気療養	41	10.2%	25	8.4%	366	18.8%	219	18.1%
忙しい(金融機関に行けない等)	179	44.5%	80	27.0%	130	6.7%	117	9.7%
奨学金の延滞額の増加	217	54.0%	154	52.0%	965	49.7%	658	54.5%
奨学金は返還するものだとは思っていない	7	1.7%	4	1.4%	28	1.4%	13	1.1%
その他	28	7.0%	20	6.8%	135	6.9%	99	8.2%
回答者数	402	-	296	-	1,943	-	1,208	-

継続している理由 \ 始まった理由	入院、事故、 災害等		返還するものだと は思っていない		その他	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	348	64.9%	75	61.0%	478	58.4%
本人が失業中(無職)	200	37.3%	31	25.2%	247	30.2%
本人が学生(留学を含む)	13	2.4%	3	2.4%	28	3.4%
本人が病気療養中	170	31.7%	10	8.1%	123	15.0%
本人の借入金の返済	176	32.8%	35	28.5%	234	28.6%
本人親の経済困難 (本人が親への経済援助をしており支出が多い)	171	31.9%	32	26.0%	240	29.3%
本人親の経済困難 (本人の親が返還する約束をしている)	149	27.8%	41	33.3%	235	28.7%
本人の配偶者の経済困難	42	7.8%	11	8.9%	81	9.9%
家族の病気療養	205	38.2%	10	8.1%	152	18.6%
忙しい(金融機関に行けない等)	29	5.4%	10	8.1%	46	5.6%
奨学金の延滞額の増加	255	47.6%	76	61.8%	421	51.4%
奨学金は返還するものだとは思っていない	5	0.9%	43	35.0%	25	3.1%
その他	39	7.3%	12	9.8%	143	17.5%
回答者数	536	-	123	-	819	-

(4)延滞が継続している理由と主な返還者との関係

延滞が継続している理由と主な返還者との関連性をみた。

主な返還者が「奨学生本人」の場合、延滞が継続している理由は「本人の低所得」が69.7%で最も高く、次いで「奨学金の延滞額の増加」が47.9%、「本人の借入金の返済」が36.5%となっている。

主な返還者が「本人の親」の場合は、「本人親の経済困難（本人の親が返還する約束をしている）」が63.1%で最も高く、次いで「本人の低所得」43.0%、「奨学金の延滞額の増加」42.8%である。

主な返還者が「本人の配偶者、パートナー」である場合は、「本人の低所得」が52.9%で最も高く、次いで「奨学金の延滞額の増加」50.0%、「本人が失業中(無職)」が45.6%である。「本人の配偶者の経済困難」は33.8%となっている。

表 5-4 延滞が継続している理由（複数）×主な返還者

(単位:人)

継続している理由	主な返還者		本人の親		本人の配偶者(夫または妻)、パートナー		その他		現在は返還できていない		計		無回答
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
本人の低所得	1,329	69.7%	216	43.0%	36	52.9%	4	50.0%	215	70.3%	1,800	64.5%	17
本人が失業中(無職)	482	25.3%	112	22.3%	31	45.6%	4	50.0%	132	43.1%	761	27.3%	10
本人が学生(留学を含む)	35	1.8%	10	2.0%	1	1.5%	1	12.5%	6	2.0%	53	1.9%	3
本人が病気療養中	200	10.5%	50	10.0%	5	7.4%	2	25.0%	63	20.6%	320	11.5%	4
本人の借入金の返済	695	36.5%	61	12.2%	21	30.9%	2	25.0%	81	26.5%	860	30.8%	10
本人親の経済困難 (本人が親への経済援助をしており支出が多い)	524	27.5%	112	22.3%	18	26.5%	0	0.0%	69	22.5%	723	25.9%	5
本人親の経済困難 (本人の親が返還する約束をしている)	285	15.0%	317	63.1%	13	19.1%	3	37.5%	65	21.2%	683	24.5%	7
本人の配偶者の経済困難	165	8.7%	26	5.2%	23	33.8%	0	0.0%	39	12.7%	253	9.1%	3
家族の病気療養	293	15.4%	103	20.5%	6	8.8%	2	25.0%	52	17.0%	456	16.3%	8
忙しい(金融機関に行けない等)	197	10.3%	15	3.0%	7	10.3%	0	0.0%	13	4.2%	232	8.3%	1
奨学金の延滞額の増加	913	47.9%	215	42.8%	34	50.0%	3	37.5%	165	53.9%	1,330	47.7%	8
奨学金は返還するものだとは思っていない	31	1.6%	8	1.6%	2	2.9%	0	0.0%	11	3.6%	52	1.9%	1
その他	164	8.6%	41	8.2%	6	8.8%	1	12.5%	30	9.8%	242	8.7%	3
回答者数	1,906	-	502	-	68	-	8	-	306	-	2,790	-	28

(5)延滞が継続している理由と年収との関係

延滞が継続している理由と本人の年収との関連性をみた。

「年収0円」の層では、延滞が継続している理由は「本人が失業中（無職）」が64.1%で最も高く、次いで「奨学金の延滞額の増加」が39.0%となっている。「年収1～400万円未満」では、「本人の低所得」が最も高く、次いで「奨学金の延滞額の増加」、「年収500万～700万円未満」では、「本人の借入金の返済」が最も高く、次いで「奨学金の延滞額の増加」となっている。

表 5-5 延滞が継続している理由（複数）×本人の年収

(単位:人)

継続の理由	年収		0円		1～100万円未満		100万～200万円未満		200万～300万円未満		300万～400万円未満		400万～500万円未満		500万～600万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	121	34.2%	354	80.5%	513	83.0%	457	74.1%	205	58.4%	74	40.4%	34	37.4%		
本人が失業中(無職)	227	64.1%	150	34.1%	144	23.3%	116	18.8%	64	18.2%	29	15.8%	11	12.1%		
本人が学生(留学を含む)	9	2.5%	12	2.7%	10	1.6%	5	0.8%	8	2.3%	5	2.7%	2	2.2%		
本人が病気療養中	87	24.6%	72	16.4%	71	11.5%	42	6.8%	24	6.8%	8	4.4%	7	7.7%		
本人の借入金の返済	44	12.4%	91	20.7%	191	30.9%	218	35.3%	143	40.7%	83	45.4%	48	52.7%		
本人親の経済困難 (本人が親への経済援助をしており支出が多い)	59	16.7%	85	19.3%	155	25.1%	199	32.3%	100	28.5%	65	35.5%	23	25.3%		
本人親の経済困難 (本人の親が返還する約束をしている)	108	30.5%	121	27.5%	136	22.0%	131	21.2%	78	22.2%	37	20.2%	16	17.6%		
本人の配偶者の経済困難	46	13.0%	51	11.6%	48	7.8%	47	7.6%	33	9.4%	19	10.4%	8	8.8%		
家族の病気療養	61	17.2%	70	15.9%	106	17.2%	100	16.2%	47	13.4%	29	15.8%	19	20.9%		
忙しい(金融機関に行けない等)	13	3.7%	17	3.9%	47	7.6%	66	10.7%	34	9.7%	29	15.8%	14	15.4%		
奨学金の延滞額の増加	138	39.0%	219	49.8%	282	45.6%	317	51.4%	170	48.4%	95	51.9%	40	44.0%		
奨学金は返還するものだとは思っていない	11	3.1%	6	1.4%	13	2.1%	9	1.5%	5	1.4%	4	2.2%	3	3.3%		
その他	29	8.2%	30	6.8%	39	6.3%	52	8.4%	41	11.7%	21	11.5%	14	15.4%		
回答者数	354	-	440	-	618	-	617	-	351	-	183	-	91	-		

継続の理由	年収		600万～700万円未満		700万～800万円未満		800万～900万円未満		900万円以上		わからない		計		無回答
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
本人の低所得	12	38.7%	0	0.0%	1	25.0%	1	14.3%	26	40.6%	1,798	64.9%	19		
本人が失業中(無職)	6	19.4%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	14	21.9%	762	27.5%	9		
本人が学生(留学を含む)	1	3.2%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	1	1.6%	54	1.9%	2		
本人が病気療養中	1	3.2%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	8	12.5%	321	11.6%	3		
本人の借入金の返済	16	51.6%	8	66.7%	3	75.0%	2	28.6%	10	15.6%	857	30.9%	13		
本人親の経済困難 (本人が親への経済援助をしており支出が多い)	7	22.6%	7	58.3%	2	50.0%	3	42.9%	14	21.9%	719	25.9%	9		
本人親の経済困難 (本人の親が返還する約束をしている)	5	16.1%	1	8.3%	0	0.0%	2	28.6%	36	56.3%	671	24.2%	19		
本人の配偶者の経済困難	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	254	9.2%	2		
家族の病気療養	4	12.9%	2	16.7%	0	0.0%	2	28.6%	17	26.6%	457	16.5%	7		
忙しい(金融機関に行けない等)	4	12.9%	1	8.3%	1	25.0%	0	0.0%	3	4.7%	229	8.3%	4		
奨学金の延滞額の増加	14	45.2%	7	58.3%	2	50.0%	3	42.9%	33	51.6%	1,320	47.6%	18		
奨学金は返還するものだとは思っていない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.1%	53	1.9%	0		
その他	2	6.5%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	9	14.1%	238	8.6%	7		
回答者数	31	-	12	-	4	-	7	-	64	-	2,772	-	46		

(6)延滞が継続している理由と職業との関係

延滞が継続している理由と職業との関連性をみた。

いずれの職業区分でも「本人の低所得」、「奨学金の延滞額の増加」の比率が高くなっている。

特に「その他の社（職）員」と「自営業/家業」で「本人の低所得」の比率が高い。

所得がある層（学生・専業主婦（夫）・無職以外）では、「本人親の経済困難（本人が親への経済援助をしており支出が多い）」の比率が高く、所得がない層（学生・専業主婦（夫）・無職）では、「本人親の経済困難（本人の親が返還する約束をしている）」「本人の配偶者の経済困難」の比率が高くなっている。

表 5-6 延滞が継続している理由（複数）×職業 (単位:人)

継続している理由	正社(職)員・従業員 /常勤社(職)員・従業員		その他の社(職) 員・従業員(パート・ アルバイト、派遣、 契約社員等)		自営業/家業	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人の低所得	647	58.0%	745	81.8%	132	84.6%
本人が失業中(無職)	169	15.1%	213	23.4%	20	12.8%
本人が学生(留学を含む)	25	2.2%	14	1.5%	1	0.6%
本人が病気療養中	70	6.3%	101	11.1%	9	5.8%
本人の借入金の返済	437	39.2%	268	29.4%	55	35.3%
本人親の経済困難 (本人が親への経済援助をしており支出が多い)	358	32.1%	219	24.0%	32	20.5%
本人親の経済困難 (本人の親が返還する約束をしている)	268	24.0%	221	24.3%	23	14.7%
本人の配偶者の経済困難	86	7.7%	88	9.7%	16	10.3%
家族の病気療養	169	15.1%	173	19.0%	12	7.7%
忙しい(金融機関に行けない等)	133	11.9%	68	7.5%	6	3.8%
奨学金の延滞額の増加	548	49.1%	457	50.2%	73	46.8%
奨学金は返還するものだとは思っていない	15	1.3%	19	2.1%	3	1.9%
その他	109	9.8%	62	6.8%	15	9.6%
回答者数	1,116	-	911	-	156	-

継続している理由	学生 (留学を含む)		専業主婦(夫)		無職・失業中/ 休職中		その他		計		無回答 人数
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
本人の低所得	4	57.1%	81	42.4%	166	48.4%	18	58.1%	1,793	65.1%	24
本人が失業中(無職)	1	14.3%	91	47.6%	259	75.5%	2	6.5%	755	27.4%	16
本人が学生(留学を含む)	5	71.4%	3	1.6%	5	1.5%	2	6.5%	55	2.0%	1
本人が病気療養中	0	0.0%	17	8.9%	113	32.9%	6	19.4%	316	11.5%	8
本人の借入金の返済	1	14.3%	22	11.5%	66	19.2%	10	32.3%	859	31.2%	11
本人親の経済困難 (本人が親への経済援助をしており支出が多い)	3	42.9%	36	18.8%	58	16.9%	8	25.8%	714	25.9%	14
本人親の経済困難 (本人の親が返還する約束をしている)	3	42.9%	67	35.1%	86	25.1%	6	19.4%	674	24.5%	16
本人の配偶者の経済困難	0	0.0%	40	20.9%	16	4.7%	6	19.4%	252	9.1%	4
家族の病気療養	0	0.0%	26	13.6%	69	20.1%	7	22.6%	456	16.6%	8
忙しい(金融機関に行けない等)	0	0.0%	8	4.2%	11	3.2%	3	9.7%	229	8.3%	4
奨学金の延滞額の増加	2	28.6%	89	46.6%	130	37.9%	14	45.2%	1,313	47.7%	25
奨学金は返還するものだとは思っていない	0	0.0%	5	2.6%	6	1.7%	4	12.9%	52	1.9%	1
その他	0	0.0%	20	10.5%	26	7.6%	2	6.5%	234	8.5%	11
回答者数	7	-	191	-	343	-	31	-	2,755	-	63

6 返還期限の猶予制度について

返還期限の猶予制度に関しては、案内資料を請求書に同封するほか、振替不能通知などの延滞督促に記載している。また、学校における奨学金に関する各種説明会での説明事項に含めている。

(1) 猶予制度の認知状況（択一）

猶予制度の認知率は延滞者で 72.0%、無延滞者で 62.8%である。ただし、返還が始まる前までに認知していた比率は、無延滞者では合計で 33.0%であるのに対し、延滞者では 4.6%と、大きな差がみられる。また延滞者では「延滞督促を受けてから知った」と回答した比率が 51.2%で最も高く、貸与の早い段階での制度認知と延滞状況が密接に関係していると認められる。

経年変化をみると、延滞者、無延滞者ともに猶予制度を「知らない」と答える比率が減少してきている。（延滞者：平成 23 年度 56.7%→平成 28 年度 28.0%、無延滞者：平成 23 年度 56.1%→平成 28 年度 37.2%）

表 6-1-1 (単位:人)

区分	延滞者		無延滞者		延滞者 比率	無延滞者 比率
	人数	比率	人数	比率		
奨学金に申し込み前から知っていた	47	1.7%	251	10.5%	72.0%	62.8%
返還が始まる前までには知っていた	80	2.9%	538	22.5%		
返還が始まってから知った	453	16.2%	651	27.2%		
延滞督促を受けてから知った	1,434	51.2%	62	2.6%		
知らない	785	28.0%	890	37.2%	28.0%	37.2%
計	2,799	100.0%	2,392	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	39		10			

(参考) 延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度			
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		
奨学金に申し込み前から知っていた	50	1.7%	77	2.1%	67.4%	64.3%	1,873	46.4%	1,632	42.9%	1,772	43.3%
返還が始まる前までには知っていた	79	2.7%	101	2.7%								
返還が始まってから知った	476	16.3%	568	15.4%								
延滞督促を受けてから知った	1,364	46.7%	1,625	44.1%								
知らない	951	32.6%	1,314	35.7%	32.6%	35.7%	2,161	53.6%	2,169	57.1%	2,316	56.7%
計	2,920	100.0%	3,685	100.0%	100.0%	100.0%	4,034	100.0%	3,801	100.0%	4,088	100.0%
無回答	21		79				105		72			

(参考) 無延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度			
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率		
奨学金に申し込み前から知っていた	373	12.0%	279	13.0%	59.5%	59.0%	1,159	46.2%	1,164	47.0%	490	43.9%
返還が始まる前までには知っていた	648	20.8%	453	21.1%								
返還が始まってから知った	762	24.5%	484	22.5%								
延滞督促を受けてから知った	67	2.2%	51	2.4%								
知らない	1,259	40.5%	880	41.0%	40.5%	41.0%	1,349	53.8%	1,310	53.0%	626	56.1%
計	3,109	100.0%	2,147	100.0%	100.0%	100.0%	2,508	100.0%	2,474	100.0%	1,116	100.0%
無回答	9		23				14		3			

表 6-1-2 (回答者:「奨学生本人」のみ) (単位:人)

区分	延滞者		無延滞者		延滞者 比率	無延滞者 比率
	人数	比率	人数	比率		
奨学金に申し込み前から知っていた	33	1.6%	186	9.5%	73.8%	62.9%
返還が始まる前までには知っていた	67	3.2%	467	23.9%		
返還が始まってから知った	355	16.7%	528	27.1%		
延滞督促を受けてから知った	1,110	52.3%	47	2.4%		
知らない	556	26.2%	723	37.1%	26.2%	37.1%
計	2,121	100.0%	1,951	100.0%	100.0%	100.0%
無回答	13		9			

(2)猶予制度の認知状況と年齢との関係

猶予制度の認知状況と年齢との関連性をみた。

年齢別にみると、年齢が若いほど延滞督促を受ける前の猶予制度の認知率が高い傾向がある。(表 6-2-1～表 6-2-2)

表 6-2-1 猶予制度の認知状況×年齢（延滞者）

(単位:人)

認知状況	～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	4	3.6%	8	1.9%	15	1.8%	9	1.5%	4	1.1%	5	2.0%	2	1.0%	47	1.7%
返還が始まる前までには知っていた	3	2.7%	16	3.7%	25	2.9%	17	2.9%	7	2.0%	7	6.3%	5	2.4%	80	2.9%
返還が始まってから知った	28	25.2%	76	17.8%	143	16.7%	84	14.2%	55	15.6%	29	11.5%	38	18.4%	453	16.2%
延滞督促を受けてから知った	49	44.1%	200	46.7%	422	49.4%	317	53.5%	204	57.8%	144	56.9%	98	47.3%	1,434	51.2%
知らない	27	24.3%	128	29.9%	249	29.2%	166	28.0%	83	23.5%	68	26.9%	64	30.9%	785	28.0%
計	111	100.0%	428	100.0%	854	100.0%	593	100.0%	353	100.0%	253	100.0%	207	100.0%	2,799	100.0%
無回答	0		4		14		7		4		5		5		39	

表 6-2-2 猶予制度の認知状況×年齢（無延滞者）

(単位:人)

認知状況	～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	45	10.2%	123	13.0%	51	7.6%	25	10.1%	3	6.5%	2	7.1%	2	11.1%	251	10.5%
返還が始まる前までには知っていた	146	33.2%	222	23.5%	101	15.1%	42	17.0%	15	32.6%	8	28.6%	4	22.2%	538	22.5%
返還が始まってから知った	97	22.0%	245	25.9%	212	31.7%	75	30.4%	12	26.1%	5	17.9%	5	27.8%	651	27.2%
延滞督促を受けてから知った	4	0.9%	25	2.6%	20	3.0%	10	4.0%	2	4.3%	1	3.6%	0	0.0%	62	2.6%
知らない	148	33.6%	330	34.9%	284	42.5%	95	38.5%	14	30.4%	12	42.9%	7	38.9%	890	37.2%
計	440	100.0%	945	100.0%	668	100.0%	247	100.0%	46	100.0%	28	100.0%	18	100.0%	2,392	100.0%
無回答	3		3		1		2		0		0		1		10	

(3)猶予制度の認知状況と年収との関係

猶予制度の認知状況と年収との関連性をみた。

年収別にみると、延滞者は年収が低いほど「延滞督促を受けてから知った」の比率が高い傾向がある。(表 6-3-1)

表 6-3-1 猶予制度の認知状況×年収（延滞者）

(単位:人)

認知状況	0円		1円～ 100万円未満		100万～ 200万円未満		200万～ 300万円未満		300万～ 400万円未満		400万～ 500万円未満		500万～ 600万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	3	0.9%	5	1.1%	9	1.5%	12	1.9%	7	2.0%	6	3.3%	1	1.1%
返還が始まる前までには知っていた	8	2.3%	11	2.5%	12	2.0%	18	2.9%	16	4.6%	7	3.8%	5	5.6%
返還が始まってから知った	45	12.8%	67	15.3%	95	15.5%	98	15.9%	64	18.5%	31	17.0%	19	21.1%
延滞督促を受けてから知った	191	54.3%	235	53.5%	336	54.7%	315	51.1%	169	48.8%	83	45.6%	36	40.0%
知らない	105	29.8%	121	27.6%	162	26.4%	173	28.1%	90	26.0%	55	30.2%	29	32.2%
計	352	100.0%	439	100.0%	614	100.0%	616	100.0%	346	100.0%	182	100.0%	90	100.0%
無回答	4		4		5		4		9		1		1	

認知状況	600万～ 700万円未満		700万～ 800万円未満		800万～ 900万円未満		900万円以上		わからない		計		無回答
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
奨学金に申し込む前から知っていた	1	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	4.5%	47	1.7%	0
返還が始まる前までには知っていた	2	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	80	2.9%	0
返還が始まってから知った	10	33.3%	4	33.3%	2	50.0%	1	12.5%	9	13.4%	445	16.1%	8
延滞督促を受けてから知った	9	30.0%	4	33.3%	1	25.0%	5	62.5%	28	41.8%	1,412	51.2%	22
知らない	8	26.7%	4	33.3%	1	25.0%	2	25.0%	26	38.8%	776	28.1%	9
計	30	100.0%	12	100.0%	4	100.0%	8	100.0%	67	100.0%	2,760	100.0%	39
無回答	1		0		0		0		0		29		10

表 6-3-2 猶予制度の認知状況×年収（無延滞者）

（単位：人）

認知状況	0円		1円～ 100万円未満		100万～ 200万円未満		200万～ 300万円未満		300万～ 400万円未満		400万～ 500万円未満		500万～ 600万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	10	7.6%	10	7.0%	34	10.0%	66	12.1%	59	11.7%	23	7.3%	24	14.7%
返還が始まる前までには知っていた	19	14.4%	26	18.2%	88	26.0%	138	25.3%	110	21.8%	68	21.7%	36	22.1%
返還が始まってから知った	44	33.3%	48	33.6%	91	26.8%	146	26.7%	126	25.0%	92	29.3%	39	23.9%
延滞督促を受けてから知った	6	4.5%	11	7.7%	12	3.5%	13	2.4%	7	1.4%	7	2.2%	2	1.2%
知らない	53	40.2%	48	33.6%	114	33.6%	183	33.5%	203	40.2%	124	39.5%	62	38.0%
計	132	100.0%	143	100.0%	339	100.0%	546	100.0%	505	100.0%	314	100.0%	163	100.0%
無回答	0		0		1		1		2		1		0	

認知状況	600万～ 700万円未満		700万～ 800万円未満		800万～ 900万円未満		900万円以上		わからない		計		無回答
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数
奨学金に申し込む前から知っていた	7	8.8%	4	7.1%	6	20.7%	2	4.7%	4	12.9%	249	10.5%	2
返還が始まる前までには知っていた	20	25.0%	10	17.9%	3	10.3%	10	23.3%	6	19.4%	534	22.4%	4
返還が始まってから知った	23	28.8%	11	19.6%	5	17.2%	17	39.5%	6	19.4%	648	27.2%	3
延滞督促を受けてから知った	2	2.5%	1	1.8%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	62	2.6%	0
知らない	28	35.0%	30	53.6%	15	51.7%	13	30.2%	15	48.4%	888	37.3%	2
計	80	100.0%	56	100.0%	29	100.0%	43	100.0%	31	100.0%	2,381	100.0%	11
無回答	1		0		0		1		0		7		3

(4)返還期限猶予制度をどこから知ったか（複数）

猶予制度を「知らない」と回答した者以外に、「猶予制度をどこから知ったか」を質問した。

延滞者は「機構（旧日本育英会）からの通知で」、「相談センターに電話して」、「債権回収会社から」猶予制度を知ったと回答した者が無延滞者よりも多い。一方、無延滞者は「返還のてびきを読んで」、「奨学金申請時・採用時の資料で」、「学校の説明会で」等と回答した者が延滞者よりも多い。これらのことから、延滞者は無延滞者と比べて猶予制度を知るタイミングが遅めであり、かつ受動的であるといえる。

表 6-4

（単位：人）

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学金申請時・採用時の資料で	111	5.6%	480	32.2%
「返還のてびき」を読んで	313	15.9%	749	50.3%
日本学生支援機構のホームページで	143	7.3%	200	13.4%
機構(旧日本育英会)からの通知で	731	37.1%	146	9.8%
相談センターに電話して	622	31.6%	31	2.1%
学校の説明会で	29	1.5%	230	15.4%
連帯保証人・保証人から	50	2.5%	24	1.6%
連帯保証人・保証人以外の家族・友人から	62	3.1%	37	2.5%
債権回収会社から	235	11.9%	2	0.1%
その他	32	1.6%	66	4.4%
回答者数	1,969	-	1,489	-
無回答	84		23	

（参考）延滞者

（単位：人）

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金申請時・採用時の資料で	184	10.3%	176	10.9%	312	18.2%	288	19.2%	-	-
「返還のてびき」を読んで	395	22.0%	419	25.9%	554	32.2%	475	31.6%	615	38.9%
日本学生支援機構のホームページで	254	14.2%	197	12.2%	238	13.9%	219	14.6%	257	16.2%
機構(旧日本育英会)からの通知で	748	41.7%	742	45.8%	761	44.3%	639	42.5%	721	45.5%
相談センターに電話して	634	35.3%	554	34.2%	647	37.7%	579	38.5%	696	44.0%
学校の説明会で	43	2.4%	24	1.5%	49	2.9%	44	2.9%	77	4.9%
連帯保証人・保証人から	92	5.1%	54	3.3%	101	5.9%	84	5.6%	117	7.4%
連帯保証人・保証人以外の家族・友人から	72	4.0%	60	3.7%	87	5.1%	62	4.1%	81	5.1%
債権回収会社から	331	18.4%	254	15.7%	243	14.1%	197	13.1%	-	-
その他	43	2.4%	36	2.2%	32	1.9%	24	1.6%	18	1.1%
回答者数	1,795	-	1,619	-	1,718	-	1,503	-	1,583	-
無回答	174		752							

（参考）無延滞者

（単位：人）

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金申請時・採用時の資料で	761	42.3%	458	47.6%	590	52.4%	564	50.9%	-	-
「返還のてびき」を読んで	1,098	61.0%	612	63.6%	744	66.1%	760	68.7%	367	74.9%
日本学生支援機構のホームページで	314	17.5%	147	15.3%	179	15.9%	213	19.2%	17	3.5%
機構(旧日本育英会)からの通知で	239	13.3%	121	12.6%	169	15.0%	196	17.7%	32	6.5%
相談センターに電話して	45	2.5%	18	1.9%	28	2.5%	43	3.9%	9	1.8%
学校の説明会で	314	17.5%	160	16.6%	185	16.4%	181	16.4%	29	5.9%
連帯保証人・保証人から	47	2.6%	15	1.6%	28	2.5%	37	3.3%	9	1.8%
連帯保証人・保証人以外の家族・友人から	88	4.9%	43	4.5%	61	5.4%	59	5.3%	10	2.0%
債権回収会社から	16	0.9%	6	0.6%	6	0.5%	6	0.5%	-	-
その他	46	2.6%	22	2.3%	30	2.7%	24	2.2%	3	0.6%
回答者数	1,799	-	963	-	1,125	-	1,107	-	490	-
無回答	51		304							



(5) 猶予制度の申請状況（択一）

猶予制度を「知らない」と回答した者以外に、猶予の申請状況を質問した。

※無延滞者は28年度より調査。

猶予制度を「申請したことがない」比率は、延滞者の32.2%に対し、無延滞者は82.2%であった。

「現在利用中である」は延滞者19.5%、無延滞者0.8%、また「過去に利用したことがあるが、今は利用していない」は延滞者24.3%に対し無延滞者は14.0%で、いずれも延滞者の方が高い。

延滞者について経年変化をみると、平成25年度以降、「過去に利用したことがあるが、今は利用していない」は減少している。（平成25年：48.9%→平成28年：24.3%）逆に、「現在、利用中である」は増加傾向である。（平成25年：11.6%→平成28年：19.5%）

表 6-5

（単位：人）

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
現在、利用中である	386	19.5%	12	0.8%
申請の準備または検討をしている(書類不備で返送されて再提出準備中の場合を含む)	219	11.1%	31	2.1%
過去に利用したことがあるが、今は利用していない	480	24.3%	207	14.0%
申請したことはあるが承認されなかった	177	9.0%	8	0.5%
申請したことがない	636	32.2%	1218	82.2%
その他	77	3.9%	6	0.4%
計	1,975	100.0%	1482	100.0%
無回答	78		30	

（参考）延滞者のみ

（単位：人）

区分	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
現在、利用中である	321	16.6%	202	15.0%	198	11.6%	192	12.7%	240	13.9%
申請の準備または検討をしている(書類不備で返送されて再提出準備中の場合を含む)	286	14.8%	155	11.5%	146	8.6%	176	11.6%	186	10.8%
過去に利用したことがあるが、今は利用していない	528	27.4%	472	35.1%	835	48.9%	706	46.6%	739	42.8%
申請したことはあるが承認されなかった										
一度も利用したことがない	735	38.1%	405	30.1%	437	25.6%	396	26.1%	445	25.8%
その他	58	3.0%	111	8.3%	91	5.3%	46	3.0%	115	6.7%
計	1,928	100.0%	1,345	100.0%	1,707	100.0%	1,516	100.0%	1,725	100.0%
無回答	41		1,026		166		116			

(6)猶予申請しない理由（択一）※延滞者にのみ質問

現在、猶予制度を利用していないと回答した者（「過去に利用したことがあるが、今は利用していない」、「申請したことがない」）に対し、その理由を質問した。

「過去に利用したことがあるが、今は利用していない」と回答した者に限定した場合、「すでに猶予期間（通算120か月）を利用してしまったため」が31.4%で最も高い。（表6-6-1）

表 6-6-1（「過去に利用あり」）

（単位：人）

区分	延滞者	
	人数	比率
返還期限猶予制度の基準に該当しないため	74	16.4%
延滞期間に関する証明書の取得が困難なため	25	5.5%
すでに猶予期間(通算120ヶ月)を利用してしまったため	142	31.4%
猶予申請しないで返還する予定のため	71	15.7%
猶予申請手続きに手間がかかるため	38	8.4%
手続きがよくわからない、よく知らなかったため	46	10.2%
その他	56	12.4%
計	452	100.0%
無回答	28	

「申請したことがない」と回答した者に限定した場合、「手続きがよくわからない、よく知らなかったため」が42.2%で最も高い。

表 6-6-2（「申請したことがない」）

（単位：人）

区分	延滞者	
	人数	比率
返還期限猶予制度の基準に該当しないため	102	19.5%
延滞期間に関する証明書の取得が困難なため	27	5.2%
すでに猶予期間(通算120ヶ月)を利用してしまったため	12	2.3%
猶予申請しないで返還する予定のため	79	15.1%
猶予申請手続きに手間がかかるため	49	9.4%
手続きがよくわからない、よく知らなかったため	221	42.2%
その他	34	6.5%
計	524	100.0%
無回答	112	

(7)猶予制度の猶予期間の長さ（通算 120 か月）（択一）※延滞者にのみ質問  
 猶予制度を「知らない」と回答した者以外に、猶予期間の長さについて質問した。

「短い」、「どちらかといえば短い」と答えた比率は全体の 25.4%で、平成 27 年度の 27.1%からわずかに減少した。

「短い」と感じる比率は、猶予期間の長さが通算 60 か月から 120 か月に延長された平成 26 年度から減少傾向が続いている。

表 6-7（延滞者のみ）（単位：人）

区分	延滞者		
	人数	比率	比率
短い	290	16.1%	25.4%
どちらかといえば短い	167	9.3%	
どちらともいえない	942	52.3%	52.3%
どちらかといえば十分	249	13.8%	22.3%
十分	152	8.4%	
計	1,800	100.0%	100.0%
無回答	253		

（参考）

（単位：人）

区分	27年度			26年度			25年度			24年度			23年度		
	人数	比率	比率	人数	比率	比率	人数	比率	比率	人数	比率	比率	人数	比率	比率
短い	321	17.0%	27.1%	366	21.8%	32.6%	510	28.5%	42.0%	412	26.2%	39.4%	429	25.2%	39.3%
どちらかといえば短い	190	10.1%		181	10.8%		242	13.5%		208	13.2%		241	14.2%	
どちらともいえない	953	50.6%	50.6%	853	50.8%	50.8%	832	46.5%	46.5%	711	45.2%	45.2%	750	44.0%	44.0%
どちらかといえば十分	258	13.7%	22.3%	169	10.1%	16.7%	121	6.8%	11.5%	138	8.8%	15.4%	170	10.0%	16.6%
十分	161	8.6%		111	6.6%		85	4.7%		104	6.6%		113	6.6%	
計	1,883	100.0%	100.0%	1,680	100.0%	100.0%	1,790	100.0%	100.0%	1,573	100.0%	100.0%	1,703	100.0%	100.0%
無回答	86			691			83			59					

7 減額返還制度について

(1)減額返還制度の認知状況（択一）

返還が始まる前までに認知していた比率は、無延滞者では合計で25.9%であるのに対し、延滞者では2.5%と、大きな差がみられる。また延滞者では「延滞督促を受けてから知った」と回答した比率が34.9%で最も高く、貸与の早い段階での制度認知と延滞状況が密接に関係していると認められる。

なお、減額返還制度を「知らない」と回答した比率は、延滞者と無延滞者いずれも55%前後で、ほとんど差がなかった。

経年変化をみると、「知らない」と答える比率はわずかながら減少傾向にある。

※28年度より選択肢を変更した。

表 7-1-1

(単位:人)

区分	延滞者			無延滞者		
	人数	比率		人数	比率	
奨学金に申し込む前から知っていた	20	0.7%	45.5%	178	7.8%	44.4%
返還が始まる前までには知っていた	48	1.8%		413	18.1%	
返還が始まってから知った	221	8.1%		394	17.2%	
延滞督促を受けてから知った	956	34.9%		32	1.4%	
知らない	1,492	54.5%	54.5%	1,271	55.6%	55.6%
計	2,737	100.0%	100.0%	2,288	100.0%	100.0%
無回答	101			114		

(参考) 延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度			平成26年度			平成25年度			平成24年度			平成23年度		
	人数	比率	比率	人数	比率	比率	人数	比率	比率	人数	比率	比率	人数	比率	比率
よく知っている	104	3.6%	20.7%	126	3.5%	21.8%	173	4.3%	21.7%	156	4.1%	19.7%	169	4.2%	18.5%
だいたい知っている	493	17.1%		661	18.3%		700	17.4%		587	15.6%		581	14.3%	
あまり知らない	875	30.3%	79.3%	985	27.2%	78.2%	962	23.9%	78.3%	958	25.4%	80.2%	1,023	25.2%	81.5%
知らない	1,416	49.0%		1,843	51.0%		2,193	54.4%		2,065	54.8%		2,283	56.3%	
計	2,888	100.0%	100.0%	3,615	100.0%	100.0%	4,028	100.0%	100.0%	3,766	100.0%	100.0%	4,056	100.0%	100.0%
無回答	53			149			111			107					

(参考) 無延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度			平成26年度			平成25年度			平成24年度			平成23年度		
	人数	比率	比率	人数	比率	比率	人数	比率	比率	人数	比率	比率	人数	比率	比率
よく知っている	131	4.3%	37.1%	88	4.1%	38.8%	104	4.1%	34.1%	133	5.4%	34.6%	43	3.9%	29.4%
だいたい知っている	1,005	32.8%		741	34.7%		750	29.9%		718	29.2%		282	25.5%	
あまり知らない	765	25.0%	62.9%	500	23.4%	61.2%	659	26.3%	65.9%	615	25.0%	65.4%	303	27.3%	70.6%
知らない	1,160	37.9%		809	37.8%		994	39.6%		995	40.4%		480	43.3%	
計	3,061	100.0%	100.0%	2,138	100.0%	100.0%	2,507	100.0%	100.0%	2,461	100.0%	100.0%	1,108	100.0%	100.0%
無回答	57			32			15			16					

表 7-1-2 (回答者:「奨学生本人」のみ)

(単位:人)

区分	延滞者			無延滞者		
	人数	比率		人数	比率	
奨学金に申し込む前から知っていた	15	0.7%	46.1%	137	7.3%	44.5%
返還が始まる前までには知っていた	41	2.0%		357	19.0%	
返還が始まってから知った	177	8.5%		320	17.0%	
延滞督促を受けてから知った	727	34.9%		22	1.2%	
知らない	1,124	53.9%	53.9%	1,042	55.5%	55.5%
計	2,084	100.0%	100.0%	1,878	100.0%	100.0%
無回答	50			82		

(2)減額返還制度の認知状況と年齢との関係

減額返還制度の認知状況と年齢との関連性をみた。

表 7-2-1 減額返還制度の認知状況×年齢（延滞者）

（単位：人）

認知状況	～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	4	3.6%	3	0.7%	7	0.8%	3	0.5%	2	0.6%	1	0.4%	0	0.0%	20	0.7%
返還が始まる前までには知っていた	3	2.7%	10	2.4%	16	1.9%	11	1.9%	2	0.6%	2	0.8%	4	2.0%	48	1.8%
返還が始まってから知った	11	10.0%	43	10.3%	71	8.5%	36	6.2%	27	8.0%	18	7.3%	15	7.4%	221	8.1%
延滞督促を受けてから知った	33	30.0%	144	34.4%	267	31.9%	205	35.1%	133	39.2%	98	39.8%	76	37.4%	956	34.9%
知らない	59	53.6%	218	52.2%	476	56.9%	329	56.3%	175	51.6%	127	51.6%	108	53.2%	1,492	54.5%
計	110	100.0%	418	100.0%	837	100.0%	584	100.0%	339	100.0%	246	100.0%	203	100.0%	2,737	100.0%
無回答	1		14		31		16		18		12		9		101	

表 7-2-2 減額返還制度の認知状況×年齢（無延滞者）

（単位：人）

認知状況	～24		25～29		30～34		35～39		40～44		45～49		50～		合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	43	10.2%	86	9.5%	29	4.5%	15	6.6%	2	4.4%	2	7.4%	1	5.3%	178	7.8%
返還が始まる前までには知っていた	124	29.3%	165	18.2%	76	11.9%	33	14.4%	7	15.6%	5	18.5%	3	15.8%	413	18.1%
返還が始まってから知った	60	14.2%	164	18.1%	111	17.4%	42	18.3%	10	22.2%	4	14.8%	3	15.8%	394	17.2%
延滞督促を受けてから知った	3	0.7%	13	1.4%	12	1.9%	3	1.3%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	32	1.4%
知らない	193	45.6%	479	52.8%	410	64.3%	136	59.4%	26	57.8%	15	55.6%	12	63.2%	1,271	55.6%
計	423	100.0%	907	100.0%	638	100.0%	229	100.0%	45	100.0%	27	100.0%	19	100.0%	2,288	100.0%
無回答	20		41		31		20		1		1		0		114	

(3)減額返還制度の認知状況と年収との関係

減額返還制度の認知状況と年収との関連性をみた。

年収別にみると、延滞者は年収 400 万円までの層で「延滞督促を受けてから知った」の比率が高い傾向がある。（表 7-3-1）

表 7-3-1 減額返還制度の認知状況×年収（延滞者）

（単位：人）

認知状況	0円		1円～100万円未満		100万～200万円未満		200万～300万円未満		300万～400万円未満		400万～500万円未満		500万～600万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	3	0.9%	0	0.0%	3	0.5%	7	1.2%	1	0.3%	4	2.2%	0	0.0%
返還が始まる前までには知っていた	4	1.2%	7	1.6%	8	1.3%	14	2.3%	6	1.7%	6	3.3%	2	2.3%
返還が始まってから知った	24	7.2%	33	7.7%	40	6.7%	36	6.0%	36	10.5%	19	10.5%	15	17.0%
延滞督促を受けてから知った	120	35.9%	160	37.2%	223	37.3%	215	35.9%	111	32.3%	54	29.8%	22	25.0%
知らない	183	54.8%	230	53.5%	324	54.2%	327	54.6%	190	55.2%	98	54.1%	49	55.7%
計	334	100.0%	430	100.0%	598	100.0%	599	100.0%	344	100.0%	181	100.0%	88	100.0%
無回答	22		13		21		21		11		2		3	

認知状況	600万～700万円未満		700万～800万円未満		800万～900万円未満		900万円以上		わからない		計		無回答
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	
奨学金に申し込む前から知っていた	4	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.5%	20	0.7%	0
返還が始まる前までには知っていた	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	47	1.7%	1
返還が始まってから知った	3	10.0%	4	33.3%	1	25.0%	0	0.0%	5	7.6%	216	8.0%	5
延滞督促を受けてから知った	8	26.7%	1	8.3%	1	25.0%	2	25.0%	21	31.8%	938	34.8%	18
知らない	18	60.0%	7	58.3%	2	50.0%	6	75.0%	39	59.1%	1,473	54.7%	19
計	30	100.0%	12	100.0%	4	100.0%	8	100.0%	66	100.0%	2,694	100.0%	43
無回答	1		0		0		0		1		95		6

表 7-3-2 減額返還制度の認知状況×年収（無延滞者）

(単位:人)

認知状況	0円		1円～ 100万円未満		100万～ 200万円未満		200万～ 300万円未満		300万～ 400万円未満		400万～ 500万円未満		500万～ 600万円未満	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
奨学金に申し込む前から知っていた	4	3.2%	7	5.3%	29	8.9%	49	9.4%	45	9.2%	14	4.7%	15	9.9%
返還が始まる前までには知っていた	16	12.7%	18	13.6%	69	21.2%	113	21.7%	81	16.6%	45	15.1%	27	17.9%
返還が始まってから知った	24	19.0%	24	18.2%	54	16.6%	91	17.5%	81	16.6%	62	20.7%	20	13.2%
延滞督促を受けてから知った	5	4.0%	4	3.0%	9	2.8%	7	1.3%	4	0.8%	1	0.3%	1	0.7%
知らない	77	61.1%	79	59.8%	165	50.6%	261	50.1%	276	56.7%	177	59.2%	88	58.3%
計	126	100.0%	132	100.0%	326	100.0%	521	100.0%	487	100.0%	299	100.0%	151	100.0%
無回答	6		11		14		26		20		16		12	

認知状況	600万～ 700万円未満		700万～ 800万円未満		800万～ 900万円未満		900万円以上		わからない		計		無回答
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数
奨学金に申し込む前から知っていた	3	4.0%	2	3.6%	4	14.3%	2	4.5%	3	9.7%	177	7.8%	1
返還が始まる前までには知っていた	15	20.0%	8	14.5%	3	10.7%	8	18.2%	7	22.6%	410	18.0%	3
返還が始まってから知った	13	17.3%	8	14.5%	1	3.6%	10	22.7%	2	6.5%	390	17.1%	4
延滞督促を受けてから知った	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	32	1.4%	0
知らない	44	58.7%	36	65.5%	20	71.4%	24	54.5%	19	61.3%	1,266	55.6%	5
計	75	100.0%	55	100.0%	28	100.0%	44	100.0%	31	100.0%	2,275	100.0%	13
無回答	6		1		1		0		0		113		1

## (4)減額返還制度をどこから知ったか（複数回答）

減額返還制度を「知らない」と回答した者以外に、「減額返還制度をどこから知ったか」を質問した。

延滞者は「機構（旧日本育英会）からの通知で」、「相談センターに電話して」、「債権回収会社から」猶予制度を知ったと回答した比率が無延滞者よりも高い。一方、無延滞者は「返還のてびきを読んで」、「奨学金申請時・採用時の資料で」、「学校の説明会で」等と回答した比率が延滞者よりも高い。これらのことから、延滞者は無延滞者と比べて猶予制度を知るタイミングが遅めであり、かつ受動的であるといえる。

※28年度より調査。

表 7-4

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学金申請時・採用時の資料で	40	3.3%	298	29.3%
「返還のてびき」を読んで	162	13.4%	523	51.5%
日本学生支援機構のホームページで	99	8.2%	159	15.6%
機構(旧日本育英会)からの通知で	436	36.0%	104	10.2%
相談センターに電話して	416	34.4%	19	1.9%
学校の説明会で	12	1.0%	168	16.5%
連帯保証人・保証人から	24	2.0%	12	1.2%
連帯保証人・保証人以外の家族・友人から	29	2.4%	17	1.7%
債権回収会社から	154	12.7%	1	0.1%
その他	18	1.5%	31	3.1%
回答者数	1,210	-	1,016	-
無回答	136		115	

(5)減額返還制度の利用状況（択一）

減額返還制度を「知らない」と回答した者以外に、減額返還制度の利用状況を質問した。

減額返還制度の利用について、延滞者は25.4%が「利用したことがある/現在利用中」だとしている。対して無延滞者は2.3%である。

※28年度より調査。

表 7-5

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
利用したことがある/現在利用中	305	25.4%	22	2.3%
利用したことがない	895	74.6%	923	97.7%
計	1,200	100.0%	945	100.0%
無回答	146		186	

## 8 無延滞者の返還状況※無延滞者にのみ質問

### (1)延滞経験の有無（択一）

無延滞者のうち、過去に「延滞したことがある」者は22.1%である。

経年変化をみると、延滞経験者の比率はほぼ横ばいである。

表 8-1 (単位:人)

区分	無延滞者	
	人数	比率
延滞したことがない	1,714	71.7%
延滞したことがある	528	22.1%
わからない	148	6.2%
計	2,390	100.0%
無回答	12	

(参考)

(単位:人)

区分	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
延滞したことがない	2,279	73.4%	1,568	72.5%	1,901	76.1%	1,819	74.3%	836	76.5%
延滞したことがある	627	20.2%	458	21.2%	469	18.8%	491	20.0%	200	18.3%
わからない	201	6.5%	137	6.3%	129	5.2%	139	5.7%	57	5.2%
計	3,107	100.0%	2,163	100.0%	2,499	100.0%	2,449	100.0%	1,093	100.0%
無回答	11		7		23		28			

### (2)延滞になったことを知ったきっかけ（あてはまるものを全て選択）

「延滞したことがある」と回答した者に、延滞になったことを知ったきっかけを質問した。

「機構（旧日本育英会）からの振替不能（延滞）通知」が59.7%で最も高く、次いで「口座残高を確認して」、「機構（旧日本育英会）からの電話」がそれぞれ27.7%となっている。

表 8-2 (単位:人)

区分	無延滞者	
	人数	比率
機構(旧日本育英会)からの振替不能(延滞)通知	313	59.7%
機構(旧日本育英会)からの電話	145	27.7%
連帯保証人・保証人からの連絡	20	3.8%
口座残高を確認して	145	27.7%
親・家族等からの連絡	44	8.4%
債権回収会社からの連絡	37	7.1%
その他	16	3.1%
回答者数	524	-
無回答	4	

(参考)

(単位:人)

区分	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
機構(旧日本育英会)からの振替不能(延滞)通知	443	72.3%	340	78.7%	359	79.2%	361	76.8%	144	72.0%
機構(旧日本育英会)からの電話	180	29.4%	148	34.3%	136	30.0%	172	36.6%	50	25.0%
連帯保証人・保証人からの連絡	46	7.5%	53	12.3%	39	8.6%	29	6.2%	14	7.0%
口座残高を確認して	193	31.5%	115	26.6%	144	31.8%	140	29.8%	43	21.5%
親・家族等からの連絡	71	11.6%	51	11.8%	51	11.3%	44	9.4%	16	8.0%
債権回収会社からの連絡	49	8.0%	35	8.1%	53	11.7%	42	8.9%	20	10.0%
その他	17	2.8%	11	2.5%	8	1.8%	5	1.1%	4	2.0%
回答者数	613	-	432	-	453	-	470	-	200	-
無回答	14		26							



(3)延滞の解消方法（あてはまるものを全て選択）

「延滞したことがある」と回答した者に、延滞を解消した方法を質問した。

「本人が延滞額を支払った（口座振替を含む）」と回答した者が 80.9%で最も高く、経年変化はみられない。

表 8-3（複数回答）

（単位：人）

区分	無延滞者	
	人数	比率
本人が延滞額を支払った(口座振替を含む)	424	80.9%
本人以外が延滞額を支払った(口座振替を含む)	77	14.7%
猶予願が承認された	30	5.7%
その他	10	1.9%
回答者数	524	-
無回答	4	

（参考）

（単位：人）

区分	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
本人が延滞額を支払った(口座振替を含む)	500	82.1%	359	82.7%	386	85.2%	372	78.6%	145	77.5%
本人以外が延滞額を支払った(口座振替を含む)	95	15.6%	74	17.1%	64	14.1%	87	18.4%	35	18.7%
猶予願が承認された	53	8.7%	34	7.8%	29	6.4%	39	8.2%	26	13.9%
その他	14	2.3%	8	1.8%	6	1.3%	6	1.3%	3	1.6%
回答者数	609	-	434	-	453	-	473	-	187	-
無回答	18		24							

(4)延滞をより早く解消できたと思われる返還方法（あてはまるものを全て選択）

「延滞したことがある」と回答した者に、延滞をより早く解消できたと思われる返還方法を質問した。

「払込票（コンビニ支払い）」と回答した者が 56.5%で最も高く、次いで「振替用口座（リレー口座）からの引き落とし（延滞額の一部でも）」の 40.1%となっている。

表 8-4 ※平成 25 年度までは、2 つまで選択。平成 26 年度以降は当てはまるものを全て選択。

（単位：人）

区分	無延滞者	
	人数	比率
振替用口座(リレー口座)からの引落とし(延滞額の一部でも)	190	40.1%
機構の口座への振込み	105	22.2%
払込票(コンビニ支払い)	268	56.5%
インターネットバンキング(振込)	65	13.7%
債権回収会社	6	1.3%
その他	20	4.2%
回答者数	474	-
無回答	54	

（参考）

（単位：人）

区分	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
振替用口座(リレー口座)からの引落とし(延滞額の一部でも)	275	48.7%	184	47.9%	180	46.8%	191	48.8%	53	31.5%
機構の口座への振込み	117	20.7%	77	20.1%	96	24.9%	74	18.9%	40	23.8%
払込票(コンビニ支払い)	327	57.9%	246	64.1%	244	63.4%	188	48.1%	107	63.7%
インターネットバンキング(振込)	57	10.1%	59	15.4%	57	14.8%	52	13.3%	19	11.3%
債権回収会社	3	0.5%	7	1.8%	2	0.5%	2	0.5%	2	1.2%
その他	14	2.5%	10	2.6%	10	2.6%	5	1.3%	4	2.4%
回答者数	565	-	384	-	385	-	391	-	168	-
無回答	62		74							

(5)繰上返還制度の認知状況（択一）

「知っている」（「よく知っている」＋「だいたい知っている」）と回答した者は、70.0%となっている。

表 8-5 (単位:人)

区分	無延滞者	
	人数	比率
よく知っている	429	18.4%
だいたい知っている	1,203	51.6%
あまり知らない	410	17.6%
知らない	289	12.4%
計	2,331	100.0%
無回答	71	

(参考)

(単位:人)

区分	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
よく知っている	489	16.0%	386	18.0%	462	18.5%	435	17.7%	202	18.3%
だいたい知っている	1,515	49.5%	1,084	50.6%	1,197	47.8%	1,261	51.4%	545	49.3%
あまり知らない	583	19.0%	375	17.5%	483	19.3%	432	17.6%	200	18.1%
知らない	474	15.5%	299	13.9%	362	14.5%	326	13.3%	159	14.4%
計	3,061	100.0%	2,144	100.0%	2,504	100.0%	2,454	100.0%	1,106	100.0%
無回答	57		26		18		23			

(6)個人信用情報機関への登録の認知状況（択一）

「知っている」（「よく知っている」＋「だいたい知っている」）と回答した者は、38.2%である。平成23年度以降、個人信用情報機関への登録の認知率は徐々に高くなっている。

表 8-6 (単位:人)

区分	無延滞者	
	人数	比率
よく知っている	257	11.0%
だいたい知っている	632	27.2%
あまり知らない	637	27.4%
知らない	801	34.4%
計	2,327	100.0%
無回答	75	

(参考)

(単位:人)

区分	27年度		26年度		25年度		24年度		23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
よく知っている	265	8.7%	196	9.2%	208	8.3%	205	8.4%	77	7.0%
だいたい知っている	786	25.8%	519	24.3%	541	21.6%	462	18.9%	171	15.5%
あまり知らない	798	26.2%	563	26.4%	642	25.7%	603	24.6%	264	23.9%
知らない	1,197	39.3%	855	40.1%	1,110	44.4%	1,178	48.1%	592	53.6%
計	3,046	100.0%	2,133	100.0%	2,501	100.0%	2,448	100.0%	1,104	100.0%
無回答	72		37		21		29			

(7)スカラネット・パーソナルの認知状況（択一）

知っている（「よく知っている」＋「だいたい知っている」）と回答した者は、41.5%である。なお、平成24年度からの経年変化をみると、スカラネット・パーソナルの認知率は24.1ポイント上昇している。（平成24年度：17.4%→平成28年度：41.5%）

表 8-7-1 (単位:人)

区分	無延滞者	
	人数	比率
よく知っている	331	14.2%
だいたい知っている	635	27.3%
あまり知らない	565	24.3%
知らない	796	34.2%
計	2,327	100.0%
無回答	75	

(参考)

(単位:人)

区分	27年度		26年度		25年度		24年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
よく知っている	279	9.1%	163	7.6%	126	5.0%	115	4.7%
だいたい知っている	736	24.1%	387	18.1%	347	13.9%	311	12.7%
あまり知らない	821	26.8%	524	24.5%	626	25.0%	599	24.5%
知らない	1,223	40.0%	1,067	49.8%	1,403	56.1%	1,424	58.1%
計	3,059	100.0%	2,141	100.0%	2,502	100.0%	2,449	100.0%
無回答	59		29		20		28	

表 8-7-2（回答者：「奨学生本人」のみ）

(単位:人)

区分	無延滞者	
	人数	比率
よく知っている	305	16.0%
だいたい知っている	546	28.6%
あまり知らない	436	22.9%
知らない	620	32.5%
計	1,907	100.0%
無回答	53	

9 各種情報提供の利用状況

(1) 日本学生支援機構送付文書類の閲覧状況（択一）

日本学生支援機構から送付した文書類について、延滞者の74.2%、無延滞者の82.3%が、「見る（「必ず見る」＋「だいたい見る）」と回答している。

回答者を「奨学生本人」に限っても、ほぼ同様の結果である。

表 9-1-1

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
必ず見る	894	32.0%	1,021	42.6%
だいたい見る	1,178	42.2%	952	39.7%
あまり見ない	506	18.1%	306	12.8%
見ない	93	3.3%	57	2.4%
届いていない	76	2.7%	56	2.3%
その他	44	1.6%	4	0.2%
計	2,791	100.0%	2,396	100.0%
無回答	47		6	

(参考) 延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
必ず見る	1,024	35.1%	1,701	45.8%	1,743	42.8%	1,604	42.1%	1,717	41.7%
だいたい見る	1,242	42.5%	1,441	38.8%	1,603	39.4%	1,480	38.8%	1,605	39.0%
あまり見ない	455	15.6%	413	11.1%	472	11.6%	482	12.7%	520	12.6%
見ない	79	2.7%	68	1.8%	92	2.3%	96	2.5%	103	2.5%
届いていない	72	2.5%	48	1.3%	106	2.6%	120	3.1%	121	2.9%
その他	47	1.6%	41	1.1%	53	1.3%	28	0.7%	54	1.3%
計	2,919	100.0%	3,712	100.0%	4,069	100.0%	3,810	100.0%	4,120	100.0%
無回答	22		52		70		63			

(参考) 無延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
必ず見る	1,356	43.6%	1,094	50.6%	1,097	43.6%	1,187	48.1%	537	48.6%
だいたい見る	1,286	41.3%	796	36.8%	942	37.5%	898	36.4%	395	35.7%
あまり見ない	358	11.5%	209	9.7%	329	13.1%	242	9.8%	118	10.7%
見ない	66	2.1%	42	1.9%	71	2.8%	50	2.0%	18	1.6%
届いていない	37	1.2%	16	0.7%	67	2.7%	78	3.2%	35	3.2%
その他	8	0.3%	6	0.3%	9	0.4%	12	0.5%	2	0.2%
計	3,111	100.0%	2,163	100.0%	2,515	100.0%	2,467	100.0%	1,105	100.0%
無回答	7		7		7		10			

表 9-1-2 (回答者:「奨学生本人」のみ) (単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
必ず見る	648	30.7%	784	40.1%
だいたい見る	885	41.9%	789	40.3%
あまり見ない	418	19.8%	283	14.5%
見ない	74	3.5%	53	2.7%
届いていない	56	2.7%	46	2.4%
その他	30	1.4%	2	0.1%
計	2,111	100.0%	1,957	100.0%
無回答	23		3	

(2)日本学生支援機構のホームページ閲覧状況（択一）

延滞者の59.3%、無延滞者の49.6%が、日本学生支援機構ホームページを「見たことはない」と回答している。「見るができない」は、延滞者では11.0%で、無延滞者の1.2%に比べて高い。なお回答者を「奨学生本人」に限ると、延滞者、無延滞者とも「見るができない」の比率は半減する。

表 9-2-1

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
およそ1ヶ月に1回以上見る	10	0.4%	9	0.4%
年に数回見る	155	5.5%	237	9.9%
過去に見たことがある	650	23.1%	929	38.7%
見たことはない	1,664	59.3%	1,191	49.6%
見るができない	310	11.0%	28	1.2%
その他	19	0.7%	7	0.3%
計	2,808	100.0%	2,401	100.0%
無回答	30		1	

(参考) 延滞者

(単位:人)

	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
およそ1ヶ月に1回以上見る	26	0.9%	23	0.6%	28	0.7%	19	0.5%	20	0.5%
年に数回見る	149	5.1%	154	4.2%	166	4.1%	160	4.2%	155	3.8%
過去に見たことがある	681	23.4%	736	20.0%	746	18.4%	631	16.7%	622	15.2%
見たことはない	1,745	60.0%	2,128	57.8%	2,334	57.7%	2,189	57.8%	2,382	58.0%
見るができない	289	9.9%	581	15.8%	748	18.5%	763	20.2%	882	21.5%
その他	20	0.7%	58	1.6%	24	0.6%	22	0.6%	44	1.1%
計	2,910	100.0%	3,680	100.0%	4,046	100.0%	3,784	100.0%	4,105	100.0%
無回答	31		84		93		89			

(参考) 無延滞者

(単位:人)

	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
およそ1ヶ月に1回以上見る	17	0.5%	7	0.3%	6	0.2%	10	0.4%	4	0.4%
年に数回見る	266	8.6%	139	6.4%	123	4.9%	156	6.3%	59	5.3%
過去に見たことがある	1,170	37.6%	723	33.4%	797	31.7%	733	29.7%	303	27.3%
見たことはない	1,575	50.6%	1,235	57.1%	1,500	59.7%	1,486	60.3%	683	61.6%
見るができない	74	2.4%	48	2.2%	79	3.1%	76	3.1%	56	5.0%
その他	8	0.3%	11	0.5%	7	0.3%	5	0.2%	4	0.4%
計	3,110	100.0%	2,163	100.0%	2,512	100.0%	2,466	100.0%	1,109	100.0%
無回答	8		7		10		11			

表 9-2-2 (回答者:「奨学生本人」のみ)

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
およそ1ヶ月に1回以上見る	6	0.3%	8	0.4%
年に数回見る	132	6.2%	222	11.3%
過去に見たことがある	571	26.8%	806	41.1%
見たことはない	1,278	60.1%	909	46.4%
見るができない	131	6.2%	9	0.5%
その他	9	0.4%	6	0.3%
計	2,127	100.0%	1,960	100.0%
無回答	7		0	

10 日本学生支援機構の奨学金に対する意識

(1) 日本学生支援機構からの情報提供（択一）

日本学生支援機構からの情報提供は十分と感じている者（「そう思う」＋「とてもそう思う」）は、延滞者では26.3%、無延滞者では39.6%である。

表 10-1 (単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
とてもそう思う	112	4.1%	120	5.0%
そう思う	607	22.2%	823	34.6%
どちらともいえない	1,173	42.9%	1,050	44.1%
そう思わない	542	19.8%	292	12.3%
まったくそう思わない	298	10.9%	96	4.0%
計	2,732	100.0%	2,381	100.0%
無回答	106		21	

(参考) 延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
とてもそう思う	144	5.1%	171	4.8%	228	5.8%	239	6.5%	212	5.3%
そう思う	577	20.4%	948	26.7%	1,044	26.5%	979	26.5%	1,110	27.7%
どちらともいえない	1,242	43.8%	1,443	40.7%	1,626	41.2%	1,540	41.7%	1,639	40.8%
そう思わない	550	19.4%	696	19.6%	750	19.0%	641	17.3%	742	18.5%
まったくそう思わない	322	11.4%	288	8.1%	298	7.6%	297	8.0%	310	7.7%
計	2,835	100.0%	3,546	100.0%	3,946	100.0%	3,696	100.0%	4,013	100.0%
無回答	106		218							

(参考) 無延滞者

(単位:人)

区分	平成27年度		平成26年度		平成25年度		平成24年度		平成23年度	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
とてもそう思う	100	3.2%	95	4.4%	130	5.2%	121	4.9%	48	4.3%
そう思う	1,012	32.7%	763	35.4%	827	33.0%	862	35.0%	381	34.5%
どちらともいえない	1,351	43.7%	946	43.9%	1,064	42.5%	1,004	40.8%	483	43.7%
そう思わない	469	15.2%	292	13.5%	376	15.0%	386	15.7%	156	14.1%
まったくそう思わない	163	5.3%	61	2.8%	108	4.3%	88	3.6%	37	3.3%
計	3,095	100.0%	2,157	100.0%	2,505	100.0%	2,461	100.0%	1,105	100.0%
無回答	23		13							

(2)日本学生支援機構の奨学金に対する意識（択一）

「現在、奨学金の返還が負担になっている」について「とてもそう思う」＋「そう思う」の合計は、延滞者 87.1%、無延滞者 48.9%と延滞者の方が負担を感じている人の比率が高い。特に、「とてもそう思う」が、延滞者では 57.8%と半数を超える。

「延滞への対応がきびしい」について「とてもそう思う」＋「そう思う」の合計は、延滞者 61.5%に対し、無延滞者は 16.3%と大差がみられた。

「借りたものなので必ず返さなければならない」、「回収は強化すべき」の2つについては無延滞者にのみ質問した。「借りたものなので必ず返さなければならない」と思っている者は 91.5%と、返還義務に対する意識は高い。一方「回収は強化すべき」と感じている者は 49.1%で、「どちらともいえない」との意見も 42.8%にのぼった。

表 10-2-1（延滞者）

（単位：人）

区分	現在、奨学金の返還が負担になっている		延滞への対応がきびしい	
	人数	比率	人数	比率
とてもそう思う	1,607	57.8%	1,076	38.8%
そう思う	813	29.3%	631	22.7%
どちらともいえない	301	10.8%	771	27.8%
そう思わない	43	1.5%	243	8.8%
まったくそう思わない	14	0.5%	53	1.9%
計	2,778	100.0%	2,774	100.0%
無回答	60		64	

表 10-2-2（無延滞者）

（単位：人）

区分	現在、奨学金の返還が負担になっている		延滞への対応がきびしい		借りたものなので必ず返さなければならない		回収は強化すべきである	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
とてもそう思う	529	22.1%	161	6.8%	1,231	51.5%	524	22.0%
そう思う	642	26.8%	225	9.5%	957	40.0%	646	27.1%
どちらともいえない	556	23.2%	1,053	44.4%	161	6.7%	1,018	42.8%
そう思わない	489	20.4%	607	25.6%	25	1.0%	147	6.2%
まったくそう思わない	176	7.4%	324	13.7%	16	0.7%	45	1.9%
計	2,392	100.0%	2,370	100.0%	2,390	100.0%	2,380	100.0%
無回答	10		32		12		22	

表 10-1 および表 10-2-1、10-2-2 について、「そう思う」（「とてもそう思う」＋「そう思う」）、「どちらともいえない」、「そう思わない」（「そう思わない」＋「まったくそう思わない」）で集計した。

表 10-2-3

(単位:人)

	延滞者			無延滞者		
	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	そう思う	どちらともいえない	そう思わない
日本学生支援機構からの情報提供は十分である	26.3%	42.9%	30.7%	39.6%	44.1%	16.3%
現在、奨学金の返還が負担になっている	87.1%	10.8%	2.1%	49.0%	23.2%	27.8%
延滞への対応がきびしい	61.5%	27.8%	10.7%	16.3%	44.4%	39.3%
借りたものなので必ず返さなければならない				91.5%	6.7%	1.7%
回収は強化するべきである				49.2%	42.8%	8.1%

(3)奨学金がどのように役に立ったか（複数）

延滞者では、「奨学金のおかげで進学可能となった」が 58.8%で最も高く、次いで「家計の負担を軽減できた」が 50.1%となっている。一方、無延滞者では「家計の負担を軽減できた」が 64.7%で最も高く、次いで「奨学金のおかげで進学可能となった」が 50.8%となっている。

2 つ以上の効果を感じている人は延滞者では 29.3%、無延滞者では 44.0%となっている。

※延滞者は 28 年度より調査。

表 10-3-1（複数回答）

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
奨学金のおかげで進学可能となった	1,618	58.8%	1,214	50.8%
修学費に充てる金額を多くできた	411	14.9%	632	26.4%
家計の負担を軽減できた	1,377	50.1%	1,547	64.7%
アルバイトの時間を減らすことができた	268	9.7%	451	18.9%
その他	156	5.7%	48	2.0%
回答者数	2,750	-	2,391	-
無回答	88		11	

表 10-3-2

(単位:人)

区分	延滞者		無延滞者	
	人数	比率	人数	比率
いずれか1つの効果を感じている人	1,918	67.6%	1,333	55.5%
2つ以上の効果を感じている人	832	29.3%	1,058	44.0%
いずれの効果も感じていない人(無回答)	88	3.1%	11	0.5%
計	2,838	100.0%	2,402	100.0%



## 奨学金の返還に関するアンケート調査への協力をお願い

日本学生支援機構では、返還者の状況を把握するため、返還中の方の中から一定の条件で無作為に抽出した方を対象にアンケート調査を行っています。今後の返還方法や奨学金制度を充実させるため、一人でも多くの方から回答をいただくことが大変重要です。お忙しいところ恐縮ですが、本調査への協力をお願いいたします。

回答いただきました内容は、貴方の返還状況等とあわせて統計的に処理し、集計、分析に使用させていただきます。また、調査研究のため、研究機関等に提供する場合があります。いずれの場合も、個人の名前や個人を特定できるような内容が外部にもれることはありません。ありのままをご回答いただきますようお願いいたします。

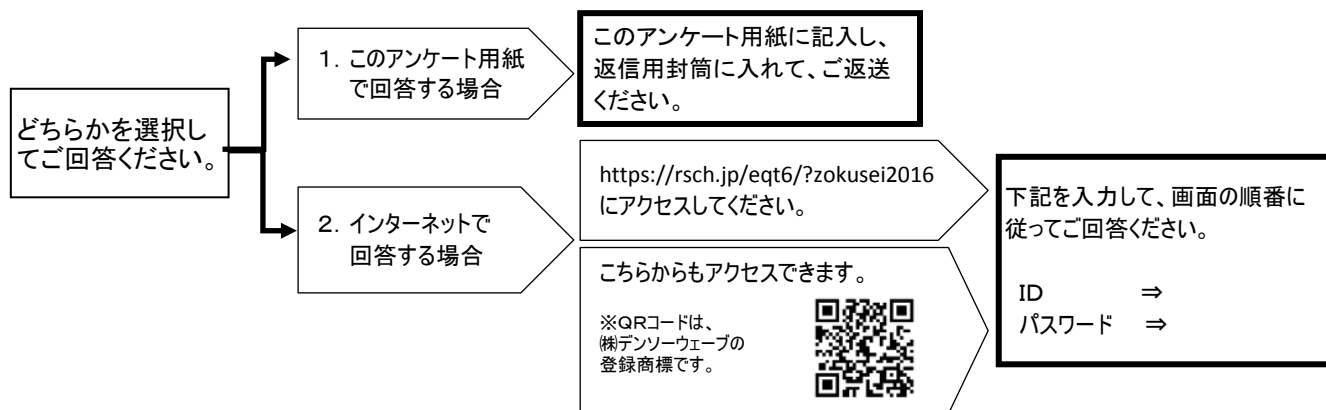
平成28年12月

独立行政法人日本学生支援機構  
奨学事業戦略部奨学事業戦略課

## ○回答期限は平成29年1月31日(火曜日)です。

### 【回答方法】

回答は、記入の上、同封の返信用封筒に入れてご返送いただくか、またはインターネット(パソコン、スマートフォン、タブレット)からのご回答をお願いします。



※ 以下の設問の中で「奨学生本人」または「本人」とは、奨学金の貸与を受けられた方（宛名に印字の方）のことです。

- このアンケートに回答された方はどなたですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。  
(1) 奨学生本人 (2) 本人の親 (3) 本人の配偶者(夫または妻)、パートナー (4) その他( )
- 奨学生本人の状況についてお聞きします。本人の就労状況について、最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。  
(1) 正社(職)員・従業員/常勤社(職)員・従業員 (2) その他の社(職)員・従業員(パート・アルバイト、派遣、契約社員等)  
(3) 自営業/家業 (4) 学生(留学を含む) (5) 専業主婦(夫) (6) 無職・失業中/休職中  
(7) その他( )



12 問11で「(1)～(4)」と回答した方にお聞きします。(「(5) (返還期限猶予制度を) 知らない」と回答した方は問13へ)

ア) 返還期限猶予制度をどこから知りましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 奨学金申請時・採用時の資料で (2) 「返還のてびき」を読んで (3) 日本学生支援機構のホームページで  
 (4) 機構(旧日本育英会)からの通知で (5) 返還相談センターに電話して (6) 学校の説明会で  
 (7) 連帯保証人・保証人から (8) 連帯保証人・保証人以外の家族や友人・知人から (9) 債権回収会社から  
 (10) その他( )

イ) 返還期限猶予制度(在学猶予を除く)の利用についてお聞きします。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 現在、利用中である  
 (2) 申請の準備または検討をしている(書類不備で返送されて再提出準備中の場合を含む)  
 (3) 過去に利用したことがあるが、今は利用していない  
 (4) 申請したことはあるが、承認されなかった  
 (5) 申請したことがない  
 (6) その他( )

ウ) 問イで「(3) 過去に利用したことがあるが、今は利用していない」または「(4) 申請したことはあるが、承認されなかった」「(5) 申請したことがない」と回答した方にお聞きします。

利用しない理由について最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

(問イで「(3)」「(4)」「(5)」以外を選択した方は問工へ)

- (1) 返還期限猶予制度の基準に該当しないため (2) 延滞期間に関する証明書の取得が困難なため  
 (3) すでに猶予期間(通算120か月)を利用してしまったため (4) 猶予申請しないで返還する予定のため  
 (5) 猶予申請手続きに手間がかかるため (6) 手続きがよくわからない、よく知らなかったため  
 (7) その他( )

工) 返還期限猶予制度の猶予期間は、平成26年度に通算60か月から通算120か月に延長されました。猶予期間(通算120か月)についてお聞きします。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 短い (2) どちらかといえば短い (3) どちらともいえない (4) どちらかといえば十分 (5) 十分

13 奨学生本人が病気や経済困難(年収325万円以下が目安)等である場合、申請により返還期限を延長し返還の月額を減額する減額返還制度がありますが、この制度をご存知ですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 奨学金を申し込む前から知っていた (2) 返還が始まる前までには知っていた  
 (3) 返還が始まってから知った (4) 延滞督促を受けてから知った (5) 知らない →問15へ

14 問13で「(1)～(4)」と回答した方にお聞きします。(「(5) 知らない」と回答した方は問15へ)

ア) 減額返還制度をどこから知りましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 奨学金申請時・採用時の資料で (2) 「返還のてびき」を読んで (3) 日本学生支援機構のホームページで  
 (4) 機構(旧日本育英会)からの通知で (5) 返還相談センターに電話して (6) 学校の説明会で  
 (7) 連帯保証人・保証人から (8) 連帯保証人・保証人以外の家族や友人・知人から  
 (9) 債権回収会社から (10) その他( )

イ) 減額返還制度の利用についてお聞きします。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 利用したことがある (2) 利用したことがない

15 日本学生支援機構からお送りしている文書類についてお聞きします。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 必ず見る (2) だいたい見る (3) あまり見ない (4) 見ない (5) 届いていない (6) その他( )

16 日本学生支援機構はホームページで各種情報を提供しています。

このホームページの閲覧についてお聞きします。最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) おおよそ1か月に1回以上見る (2) 年に数回見る (3) 過去に見たことがある (4) 見たことはない  
 (5) 見るができない (6) その他( )

17 日本学生支援機構の奨学金に対してどのように感じていますか。 ア～ウについて、それぞれあてはまる欄に○を記入してください。	とても 思う	思う	ど う も い え な い	そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い
ア) 日本学生支援機構からの情報提供は十分である					
イ) 現在、奨学金の返還が負担になっている					
ウ) 延滞への対応がきびしい					

18 延滞が始まった理由(きっかけ)についてお聞きします。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 忙しかった(金融機関に行くことができなかったなど) (2) 返還を忘れていた、口座残高をまちがえていたなどのミス  
 (3) 家計の収入が減った (4) 家計の支出が増えた  
 (5) 入院、事故、災害等にあつたため (6) 奨学金は返還するものだとは思っていなかった  
 (7) その他( )

18-2 上記で○をつけた理由の中で最も大きな理由は何ですか。番号を一つ記入してください。→

19 延滞が継続した理由についてお聞きします。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 本人の低所得 (2) 本人が失業中(無職)  
 (3) 本人が学生(留学を含む) (4) 本人が病気療養中  
 (5) 本人の借入金の返済 (6) 本人の親の経済困難(本人が親へ経済援助をしており支出が多い)  
 (7) 本人の親の経済困難(本人の親が返還する約束をしている) (8) 本人の配偶者の経済困難  
 (9) 家族の病気療養 (10) 忙しい(金融機関に行けない等)  
 (11) 奨学金の延滞額の増加 (12) 奨学金は返還するものだとは思っていない  
 (13) その他( )

19-2 上記で○をつけた理由の中で最も大きな理由は何ですか。番号を一つ記入してください。→

20 日本学生支援機構の奨学金は主にどのように役立ちましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 奨学金のおかげで進学が可能となった (2) 修学費に充てる金額を多くできた  
 (3) 家計の負担を軽減できた (4) アルバイトの時間を減らすことができた  
 (5) その他( )

21 日本学生支援機構の奨学金制度について、ご意見等がございましたら、ご記入ください。

この回答用紙および同封の返信用封筒は、個別のご相談にはご利用いただけません。

○ご相談、お問合せは「奨学金返還相談センター」までお願いします。

電話 : 0570-666-301 (ナビダイヤル・全国共通)

月曜～金曜・8時30分～20時00分 (祝日・年末年始を除く)

ナビダイヤルをご利用できない場合は03-6743-6100へおかけください。

日本学生支援機構ホームページ << <http://www.jasso.go.jp/> >>

ご協力ありがとうございました。

## 奨学金の返還に関するアンケート調査への協力をお願い

日本学生支援機構では、返還者の状況を把握するため、返還中の方の中から一定の条件出で無作為に抽出した方を対象にアンケート調査を行っています。今後の返還方法や奨学金制度を充実させるため、一人でも多くの方から回答をいただくことが大変重要です。お忙しいところ恐縮ですが、本調査への協力をお願いいたします。

回答いただきました内容は、貴方の返還状況等とあわせて統計的に処理し、集計、分析に使用させていただきます。また、調査研究のため、研究機関等に提供する場合があります。いずれの場合も、個人の名前や個人を特定できるような内容が外部にもれることはありません。ありのままをご回答いただきますようお願いいたします。

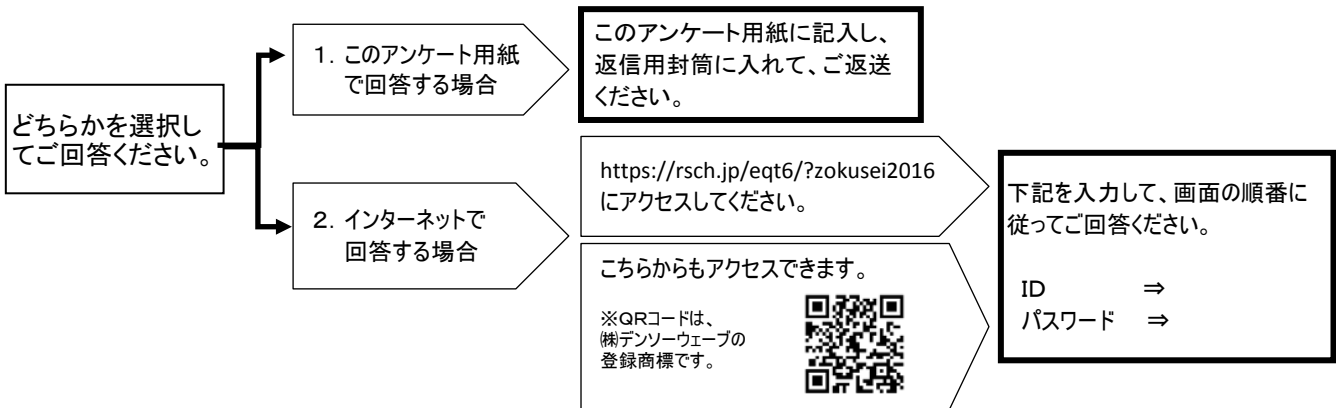
平成28年12月

独立行政法人日本学生支援機構  
奨学事業戦略部奨学事業戦略課

### ○回答期限は平成29年1月31日(火曜日)です。

#### 【回答方法】

回答は、記入の上、同封の返信用封筒に入れてご返送いただくか、またはインターネット(パソコン、スマートフォン、タブレット)からのご回答をお願いします。



※ 以下の設問の中で「奨学生本人」または「本人」とは、奨学金の貸与を受けられた方（宛名に印字の方）のことです。

- このアンケートに回答された方はどなたですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。  
 (1) 奨学生本人      (2) 本人の親      (3) 本人の配偶者（夫または妻）、パートナー      (4) その他( )
- 奨学生本人の状況についてお聞きします。本人の就労状況について、最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。  
 (1) 正社(職)員・従業員/常勤社(職)員・従業員      (2) その他の社(職)員・従業員（パート・アルバイト、派遣、契約社員等）  
 (3) 自営業/家業      (4) 学生(留学を含む)      (5) 専業主婦(夫)      (6) 無職・失業中/休職中  
 (7) その他( )



12 問11で「(1)～(4)」と回答した方にお聞きします。(「(5) (返還期限猶予制度を) 知らない」と回答した方は問13へ)

ア) 返還期限猶予制度をどこから知りましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 奨学金申請時・採用時の資料で (2) 「返還のてびき」を読んで (3) 日本学生支援機構のホームページで  
 (4) 機構(旧日本育英会)からの通知で (5) 返還相談センターに電話して (6) 学校の説明会で  
 (7) 連帯保証人・保証人から (8) 連帯保証人・保証人以外の家族や友人・知人から (9) 債権回収会社から  
 (10) その他( )

イ) 返還期限猶予制度(在学猶予を除く)の利用についてお聞きします。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 現在、利用中である  
 (2) 申請の準備または検討をしている(書類不備で返送されて再提出準備中の場合を含む)  
 (3) 過去に利用したことがあるが、今は利用していない  
 (4) 申請したことはあるが、承認されなかった  
 (5) 申請したことがない  
 (6) その他( )

13 奨学生本人が病気や経済困難(年収325万円以下が目安)等である場合、申請により返還期限を延長し返還の月額を減額する減額返還制度がありますが、この制度をご存知ですか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 奨学金を申し込む前から知っていた (2) 返還が始まる前までには知っていた  
 (3) 返還が始まってから知った (4) 延滞督促を受けてから知った (5) 知らない →問15へ

14 問13で「(1)～(4)」と回答した方にお聞きします。(「(5) 知らない」と回答した方は問15へ)

ア) 減額返還制度をどこから知りましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 奨学金申請時・採用時の資料で (2) 「返還のてびき」を読んで (3) 日本学生支援機構のホームページで  
 (4) 機構(旧日本育英会)からの通知で (5) 返還相談センターに電話して (6) 学校の説明会で  
 (7) 連帯保証人・保証人から (8) 連帯保証人・保証人以外の家族や友人・知人から (9) 債権回収会社から  
 (10) その他( )

イ) 減額返還制度の利用についてお聞きします。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 利用したことがある/現在利用中 (2) 利用したことがない

15 日本学生支援機構の制度についてお聞きします。 ア～ウについて、それぞれあてはまる欄に○を記入してください。	よく知っている	だいたい知っている	あまり知らない	知らない
ア) 繰上返還制度(返還期日がきていない将来の返還分の一部または全額を繰り上げて返還することができるしくみ)				
イ) 一定期間延滞した場合の個人情報情報機関への登録(登録は「個人情報情報の取扱いに関する同意書」提出者のみ)				
ウ) スカラネット・パーソナル(インターネット上で自分自身の奨学金に関する情報や登録されている内容を閲覧したり、転居・改姓・勤務先変更等の届出ができるサービス)				

16 日本学生支援機構からお送りしている文書類についてお聞きします。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 必ず見る (2) だいたい見る (3) あまり見ない (4) 見ない (5) 届いていない (6) その他( )

17 日本学生支援機構はホームページで各種情報を提供しています。

このホームページの閲覧についてお聞きします。最もあてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) おおよそ1か月に1回以上見る (2) 年に数回見る (3) 過去に見たことがある (4) 見たことはない  
 (5) 見るできない (6) その他( )

18 日本学生支援機構の奨学金に対してどのように感じていますか。 ア～オについて、それぞれあてはまる欄に○を記入してください。	とても そう思う	そう 思う	どちら ともい えない	そう 思わな い	まっ たく そう 思わ ない
ア)日本学生支援機構からの情報提供は十分である					
イ)現在、奨学金の返還が負担になっている					
ウ)延滞への対応がきびしい					
エ) 借りたものなので必ず返さなければならない					
オ) 延滞している人への回収は強化するべきである					

19 今までに奨学金の返還を延滞したことがありますか。あてはまる番号に一つだけ○をつけてください。

- (1) 延滞したことがない→問21へ (2) 延滞したことがある (3) わからない→問21へ

20 問19で「(2) 延滞したことがある」と回答した方にお聞きます。(「(1)」または「(3)」と回答した方は問21へ)

ア)延滞になったことをどこから知りましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 機構(旧日本育英会)からの振替不能(延滞)通知 (2) 機構(旧日本育英会)からの電話 (3) 連帯保証人・保証人からの連絡  
(4) 口座残高を確認して (5) 親・家族等からの連絡 (6) 債権回収会社からの連絡  
(7) その他( )

イ)延滞をどのように解消しましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 本人が延滞額を支払った(口座振替を含む) (2) 本人以外が延滞額を支払った(口座振替を含む)  
(3) 返還期限猶予願が承認された (4) その他( )

ウ)延滞した場合の返還方法は主に払込票(銀行・郵便局窓口)によるものですが、延滞をより早く解消できたと思われる返還方法はありますか。もしあれば、あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) リレー口座からの引落し(延滞額の一部でも) (2) 機構の口座への振込み (3) 払込票(コンビニ支払い)  
(4) インターネットバンキング(振込) (5) 債権回収会社 (6) その他( )

21 日本学生支援機構の奨学金は主にどのように役立ちましたか。あてはまる番号に全て○をつけてください。

- (1) 奨学金のおかげで進学が可能となった (2) 修学費に充てる金額を多くできた  
(3) 家計の負担を軽減できた (4) アルバイトの時間を減らすことができた  
(5) その他( )

22 日本学生支援機構の奨学金制度について、ご意見等がございましたら、ご記入ください。

この回答用紙および同封の返信用封筒は、個別のご相談にはご利用いただけません。

○ご相談、お問合せは「奨学金返還相談センター」までお願いします。

電話 : 0570-666-301 (ナビダイヤル・全国共通)

月曜～金曜・8時30分～20時00分 (祝日・年末年始を除く)

ナビダイヤルをご利用できない場合は03-6743-6100へおかけください。

日本学生支援機構ホームページ << <http://www.jasso.go.jp/> >>

ご協力ありがとうございました。